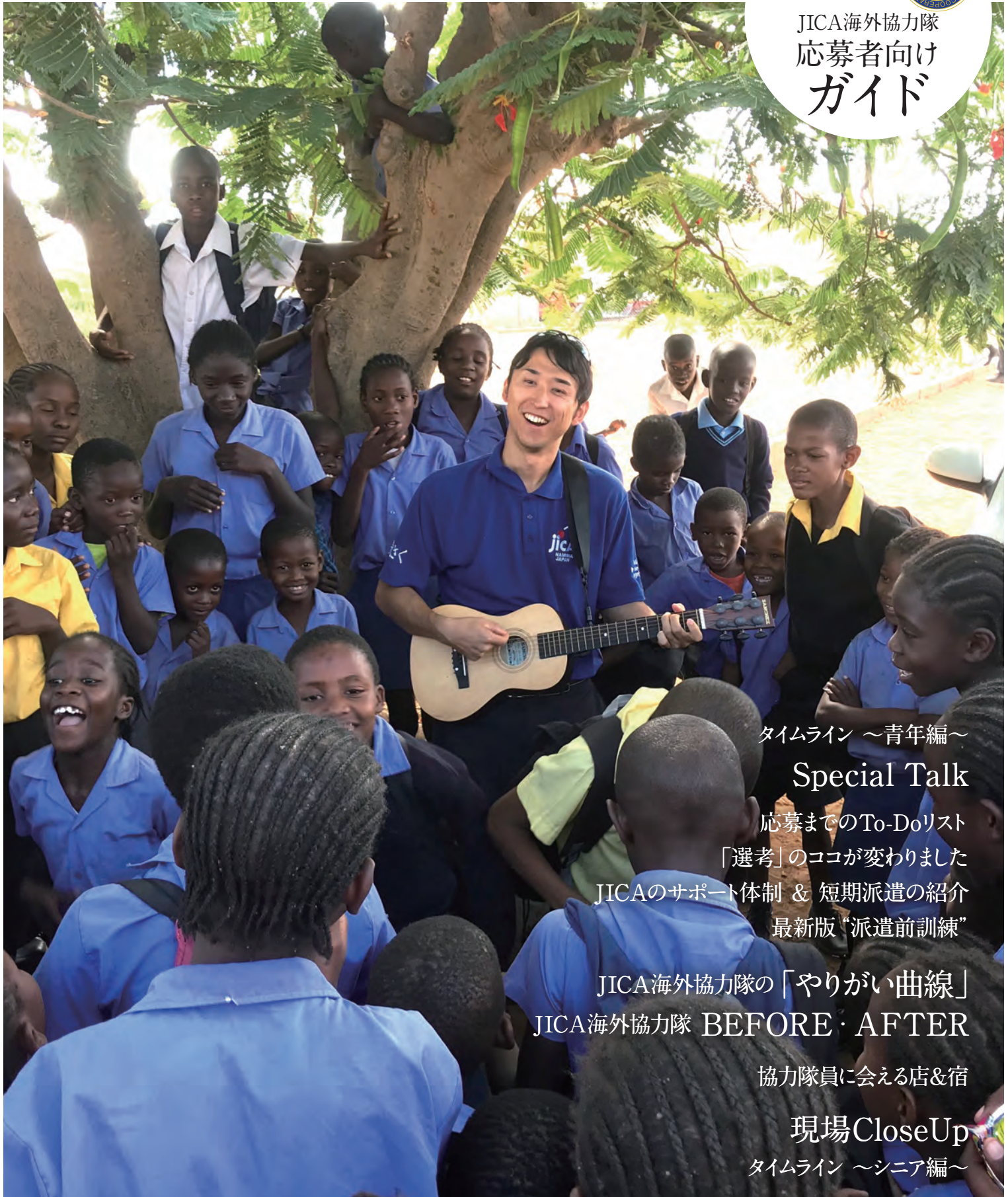


# クロスロード

CROSSROADS



JICA海外協力隊  
応募者向け  
ガイド



タイムライン ～青年編～

Special Talk

応募までのTo-Doリスト

「選考」のココが変わりました

JICAのサポート体制 & 短期派遣の紹介

最新版「派遣前訓練」

JICA海外協力隊の「やりがい曲線」

JICA海外協力隊 BEFORE・AFTER

協力隊員に会える店&宿

現場CloseUp

タイムライン ～シニア編～



## 応募者へのメッセージ

応募時に迷いもありましたが、今は参加してよかったと思っています。隊員経験のみならず、次のステップへとつながる多くのものを得ました。応募を迷われている方も、ぜひ勇気をもって一歩踏み出してみてください。

## 2019年8月

花き産業向けの資材・機械・花束加工販売を行うインパック株式会社に就職。花束加工販売などを行う国際フラワーロジスティクスに鈴川さんは勤務。エチオピアのバラの輸入と日本での普及拡大に携わっている。

## ▶20ページ

「JICA 海外協力隊 BEFORE・AFTER」

## 2019年4月

エチオピアにかかわる企業を見つけたが、求人はいなかった。「逆オファーだ!」とカウンセラーに勇気付けられて応募。

カウンセラーに相談



エチオピアのバラ

## 帰国



帰国後

## 2019年2月

帰国後研修

▶12ページ

「JICA のサポート体制」

活動報告

## 2018年6月

お土産物の創出も行い、現地の布でつくった袋にコーヒー豆を入れた商品や、「偽バナナ(\*)」の繊維を原料に現地の女性たちがつくるクラフト品も販売した。  
\*偽バナナ…パシショウ科の植物。見た目がバナナの木に似ているが実はない。茎からでんぷんと、繊維が取れる。

▶16ページ

「JICA 海外協力隊の「やりがい曲線」」

## 活動中



鈴川さん



無形文化遺産にも登録されている  
任地に住む民族の新年のお祭り

鈴川さん



配属先である  
文化観光スポーツ局の同僚たち

## 活動開始



任地の周りに住む民族の絵が描かれた任地のシンボルの塔



湖に住むカバは  
観光資源のひとつ



任地の景色

観光資源を発掘!

現地語学訓練

## 2017年2月

エチオピアの南部諸民族州の州都にある文化観光スポーツ局に配属され、観光隊員として観光資源の整備とプロモーションを求められた。

▶28ページ

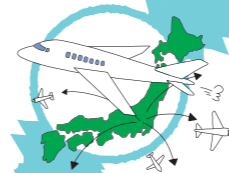
「現場CloseUp」

## 2017年1月

派遣国に出発

▶12ページ

「JICA のサポート体制」



派遣中

## 派遣前訓練



## 2016年10月

エチオピアに派遣される鈴川さんの訓練言語は英語。英語は、午前はレベル別のクラスで受講、午後は自身の職種に合わせたクラスで受講する。「英語ができる人ばかりのクラスで必死に勉強した」と鈴川さん。

▶14ページ

「最新版「派遣前訓練」」

## 派遣前

## 募集説明会に行く

## 情報収集

▶26ページ

「協力隊員に会える店&宿」



## 応募を 決意

## 2015年12月

ウェブサイトで協力隊の「観光」職種を知り、自分が持つスキルで人の役に立つ活動ができると応募を決意。

## 技術 補完研修

## 合格通知

## 2016年8月

驚きとともに、国内での訓練・渡航への不安も湧いてきた。

## 2次選考 (面接)



## 書類審査 通過

## 2016年7月

いろいろな職種の人を初めて見て、みんなが優秀そうに見えて緊張MAX!

▶11ページ

「「選考」の  
ココが変わりました」

## 応募書類 など作成 ・提出

## 2016年3月

応募準備

▶10ページ

「応募までの To-Do リスト」



イラスト=タケダミホ(ケニア・環境教育・2009年度3次隊)

本誌では、JICA海外協力隊の方々(経験者を含む)について、次のように表記しています。

国際協子さん(ガーナ・青少年活動・2019年度1次隊)  
氏名 派遣国 職種 隊次

「十字路口」を意味する本誌の誌名は、国際協力に必要な「対話と行動」というイメージにも通じることに由来します。

【表紙写真】  
写真中央は、ナミビアで小学校を巡回しながら授業の質向上支援に取り組む岩塚善哉(いわつかよしや)さん(小学校教育・2018年度1次隊)。最初の学校巡回の際はかならずギターを持参。外国人に初めて会う子も多いなか、岩塚さんの弾き語りによって彼らの緊張は一気にほぐれる。

デザイン・レイアウト:株式会社AND  
印刷・製本:弘報印刷(株)

CONTENTS

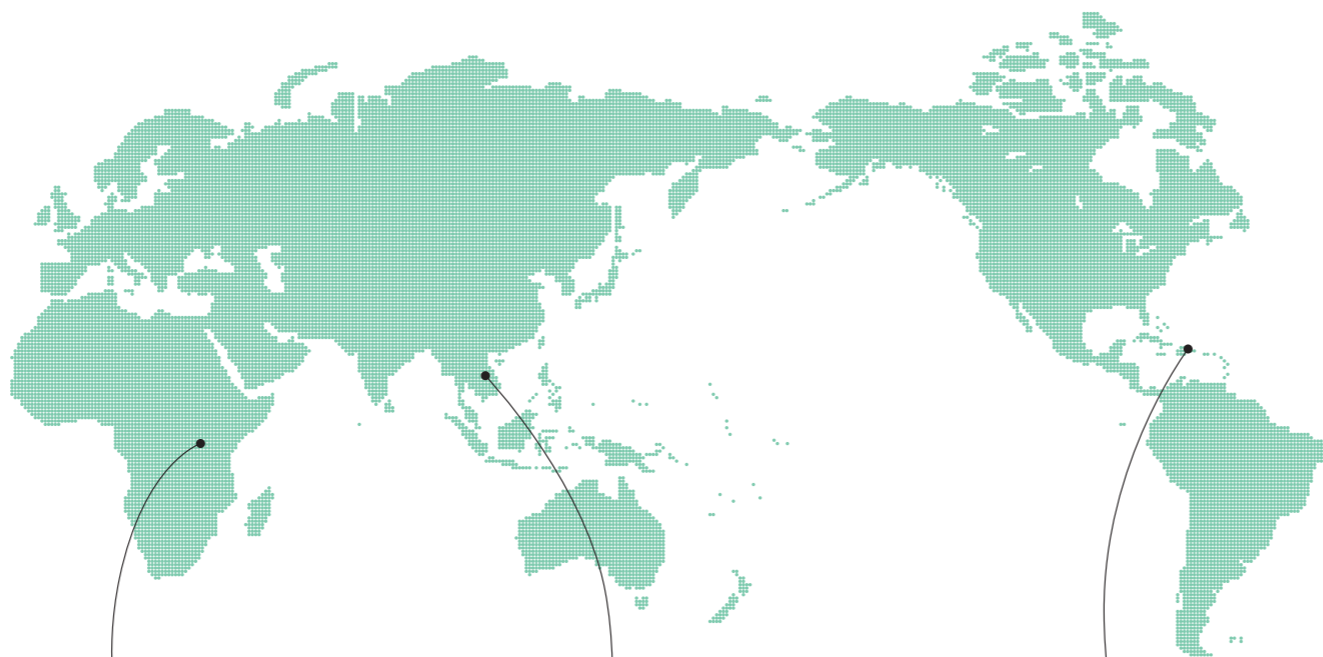
- 04 Special Talk
- 10 応募までの To-Do リスト
- 11 「選考」のココが変わりました
- 12 JICA のサポート体制&短期派遣の紹介
- 14 最新版「派遣前訓練」
- 16 JICA 海外協力隊の「やりがい曲線」
- 20 JICA 海外協力隊 BEFORE・AFTER
- 26 協力隊員に会える店&宿
- 28 現場 CloseUp
- 34 タイムライン ~シニア編~



応募前、あるいは選考試験に合格してから赴任までの間に、どのような準備をすれば良いのか？ 協力隊経験を通して得られる成長とは？ 参加を考えている方々にとっての関心事について、帰国してまもないOB・OGに語り合ってください。

# Special Talk

## — 協力隊OB・OG座談会 —



**編集部** まずはおひとりずつ自己紹介をお願いします。

**荒井** ドミニカ共和国のカトリック系NGOに配属され、コーヒーの生産が盛んな村の女性グループと一緒に、コーヒー豆を使ったアクセサリや石けんなど、収入向上につながるような商品開発の支援に取り組んできました。私はスポーツメーカーの株式会社アシックスの休職制度を利用しての現職参加で、派遣前は5年間、シューズの商品開発に携わっていました。帰国してからはCSR担当部署に配属されています。

**細田** ラオスの地方都市にある総合病院の集中治療室に配属され、看護技術や心肺蘇生法を同僚たちに教える活動などに取り組んできました。私は退職しての参加で、派遣前は看護師として、個人病院の一般病棟と大病院の集中治療室にそれぞれ5年間勤務しています。現在は、国際救援ができる看護師

を目指し、求職活動中です。

**萩原** ウガンダの農村にある、児童数が400人ほどの小学校に配属され、高学年の算数や体育、図工の授業を担当しました。大学は教育学部だったのですが、4年生のときは協力隊一本に絞って教員採用試験などは受けず、卒業した年に新卒で協力隊に参加しています。現在は地元の静岡県にある市立中学校で英語の講師を務めながら、国際協力への道に進むための準備をしています。

**編集部** みなさんはそれぞれ参加したときの年代が異なりますが、協力隊に興味を持ってから参加に至るまでのおおまかな流れを教えてくださいませんか。

**荒井** 協力隊に興味を持つようになったきっかけについては、これといった明確なものはありません。おそらくテレビのドキュメンタリー番組などの影響で、高校生のころには漠然と国際協

力や協力隊に興味を持っていました。アシックスに入社した一番の理由も、「スポーツを通じた社会づくりへの貢献」が実現できると感じたことでした。アシックスは戦後まもない時期に、神戸で子どもたちの荒んだ様子を見た創業者が、「スポーツを通して子どもたちに心身ともに健康になってもらいたい」という思いで立ち上げた会社であり、「アシックス」という社名も、「健全な身体に健全な精神があれかし」という意味のラテン語の頭文字を取ったものです。入社した後、休職して協力隊に参加できる制度があるのを知り、いつかそれを利用したいと思っていたのですが、入社して最初に携わった仕事が本当に楽しく、応募の時期は迷いました。結局、入社4年目のタイミングで自分の仕事とキャリアを考えて協力隊への参加を決めました。

仕事の腕を磨くのに精一杯で、そんな思いを忘れていたのですが、看護師9年目のときにひとりでベトナム旅行をしたことで、ふたたび頭に浮かぶようになりました。ベトナムでは、知人の協力を得て現地の病院を見学させてもらったのですが、患者の身の周りの世話は家族が行い、看護師は採血や点滴をしているということを知りました。日本の病院とはまるで違うような状況に衝撃を受け、「協力隊に参加し、途上の病院で実際に働いてみよう」と考えるようになりました。

**萩原** 私は父が若いころに協力隊でケニアに行っており、幼いころからずっとその話を聞いていたので、中学生のときには「いずれ協力隊に参加しよう」と決めていました。父の話は「支援のあり方」などに関するものではなく、いつも「アフリカの人たちがどれだけ豊かな心を持っているか」というものだったので、そういう人たちに実際に会ってみたいという思いが強くなりました。

大学を選ぶ際も、「協力隊に参加できるような専門性を身につけられるかどうか



あらいたかお  
**荒井孝雄**さん  
(ドミニカ共和国・コミュニティ開発・2017年度1次隊)

1989年生まれ、滋賀県出身。大学卒業後、株式会社アシックスに5年間勤務。商品開発に携わる。2017年7月、ボランティア休職制度を利用して、協力隊員としてドミニカ共和国に赴任。NGO「ミッション・イラク」(サンティアゴ県リセイ市)に配属され、コーヒー豆を使ったアクセサリなど新商品の開発支援に取り組む。19年7月に帰国し復職。現在はCSR担当部署に所属。

### 現職参加



ほそだみか  
**細田実香**さん  
(ラオス・看護師・2017年度1次隊)

1985年生まれ、和歌山県出身。看護専門学校を卒業した後、看護師として個人病院の一般病棟に5年間、大病院の集中治療室に5年間勤務。退職後の2017年6月、協力隊員としてラオスに赴任。地方都市の総合病院、ポリカムサイ県病院(ポリカムサイ県バクサン郡)の集中治療室に配属され、同僚たちへの看護技術や心肺蘇生法の指導などに携わる。19年6月に帰国。

### 退職参加



はぎわらなつこ  
**萩原夏子**さん  
(ウガンダ・小学校教育・2017年度1次隊)

1994年生まれ、静岡県出身。大学を卒業した2017年6月に協力隊員としてウガンダに赴任。地方農村部にあるセントアン小学校(ワキノ県カキリ)に配属され、英語で授業が行われる高学年(4~7年生)のクラスで、算数や体育、図工の授業を担当。19年6月に帰国。現在は静岡県の公立中学校で英語科講師を務める。

※「学卒直行」とは、学校卒業後、新卒で協力隊に参加することを意味します。

### 学卒直行

の参加はちょうど良いのかなと思いましたが、と言ったのも、帰国後、大学院に進学したり、協力隊の経験を生かせる仕事に就いたりする同期隊員も多く、「新たな生き方にチャレンジできる年代」なのだろうと感じるからです。

**細田** もう少し早く参加していたら良かったかなと思ったのは、派遣前訓練に入ったときです。私は当時31歳で、同期は20代が大半でした。そうすると、「ちょっとノリに付いていけない」と感じるときもありました。看護職の場合、年数が経てば昇進できます。私は5年で

かという点を重視しています。「教育」ならば社会づくりの基本となる分野であり、協力隊にも関連する職種がいくつかあるので、教育学部に進んで教員免許を取ることにしました。大学では途上国の教育について研究しています。

**編集部** ご自身の参加のタイミングについて、「早すぎた」「遅すぎた」といった後悔などはありますか。

### 参加の「タイミング」や「形態」

「社会人経験を積んでから協力隊に参加したほうが良い」という意見があることは知っていたのですが、私は一刻も早く協力隊に参加したかったので、大学4年生のときの春募集に応募し、そこで合格することができました。

**荒井** 私は27歳で訓練所に入り、29歳で帰国したので、平均的な年齢での参加だったかと思いますが、この年代で

職場を移っているため、そうしたステップアップのルートからはちょっと外れているケースだったので、10年というタイミングでキャリアを中断させることにためらいはありませんでした。

**萩原** 私は今後、国際協力の道に進みたいと考えているのですが、協力隊経験を通じて、「もっとも大切なのは現場を知ることだ」という国際協力に対する考え方の軸を得ることができたので、この段階で参加したのは良かったなと感じています。

**編集部** 「現職参加」や「退職参加」「学



卒直行」と、みなさんは参加形態もそれぞれ異なります。「ほかの形態で参加したほうが良かったかもしれない」といった後悔はありませんか。

**荒井** 応募前に、会社を辞めて参加するかどうかで悩んだことはありました。協力隊経験で価値観が変わり、たとえ現職参加をしたとしても、帰国後にすぐ転職したくなってしまいう可能性も考えたからです。最終的に現職参加を選んだのは、入社の手と手となった「スポーツを通じた社会づくりへの貢献」にまだ具体的にかかわることができていないうちに辞めてしまうのはもったいない、協力隊に参加し、その経験を生かして自分の思いを実現できるようチャレンジしてみたいと考えたからでした。

**細田** 私が応募時に勤務していた病院には、協力隊への現職参加の可能性を探っている同僚の看護師がいたので、私が、難しそうな様子でしたので、私は「現職参加」という選択はほとんど頭にはありませんでした。幸い、看護職は慢性的に人材不足なので、帰国後の再就職に困ることはないだろうという考えもありました。実際、帰国してからすぐにいくつか仕事のオファーをいただくことができています。看護学校の教員や病院の看護職などです。

赴任前の準備や持ち物

**編集部** 応募前に協力隊に関する情報はどのように集めましたか。

で半年ほど時間があつたので、独学でスペイン語の勉強に取り組みました。参考書を1冊丸ごとこなしたので、それをやったおかげで、訓練所での語学の勉強も、赴任してからのブラッシュアップも、非常にやりやすくなったと感じています。

**細田** 看護の技術に関しては、10年の経験があつたので、協力隊参加に向けて新たに勉強するというようなことはしませんでした。派遣前の準備で「やっけて良かった」と思うのは、私の配属先で活動していた前任隊員の方とのコミュニケーションです。SNSで「協力隊の選考試験に合格しました。派遣国はラオスです」と投稿したところ、ラオス派遣の協力隊OBの方がそれに目をとめ、前任隊員の方との間を繋いでくださいました。直接お会いして話をうかがうこともできましたし、資料をいただくこともできました。私が協力隊時代に特に力を入れたのは心肺蘇生法の指導なのですが、それは前任隊員の方にいただいていた資料も参考にすることができたので、スムーズに活動できました。

**萩原** 私は「まったくさらな状態」で赴き、現場をよく見てから、やるべきことを考えよう」というスタンスだったので、配属先のことなどを事前に調べることはほとんどしませんでした。現場の状況のこまかな点は、日本で知ることはできないと思っただけです。

**荒井** たしかに萩原さんのおっしゃるとおりかもしれません。私の要請内容は「花きの販売促進支援」だったので、派遣前訓練の間に農業分野の隊員に

ここでつまづくのだな」と思ったこともありましたが、私は性格的に一度やり始めたことは根詰めてしまうタイプなので、もし大学を卒業して就職に就いていたら、仕事にのめり込んでしまっていたかも知れません。そういう意味でも、「学卒直行」は私にとっては良い選択だったのだらうと思っています。

**荒井** 私は応募することを決めた後、選考試験に合格するような応募書類を

いろいろ教えてもらいました。ところが、赴任すると、女性グループの収入向上のほうで支援のニーズが高いことがわかりました。そこからあらためて、インターネットなどでコーヒーやアクセサリづくりなどについての勉強をすることになったのです。

**編集部** 赴任時に日本から持ってきた物のうち、特に重宝した例はありますか。

**荒井** 穴の空いた硬貨は珍しいため、「5円玉」が好評だったということが協力隊員のブログに書いてあったので、たくさん集めて持っていました。帰国



①活動対象の女性グループとコーヒー豆を使った商品の開発について話し合う協力隊時代の荒井さん  
②住民の9割がコーヒー農園で働いている荒井さんの活動先の村の風景  
③協力隊時代の荒井さんの自室。ホームステイで、3人のホストファミリーとともに生活した

つくれるようになるため、積極的に情報収集をしました。帰国した隊員が体験談を発表する帰国報告会や募集説明会も、2、3度足を運んでいます。

**細田** 私は「協力隊に行こう」と思いついた後、まずはJICA和歌山デスクを訪ね、単刀直入に「どうやってたら協力隊になれるのですか」と聞きました。そのときに「クロスロード」やパンフレットなどの資料をいただいたのですが、あまり文字を読むのが好きではないので、やはり帰国報告会に2回ほど参加し、OB・OGの方に直接話をうかがって情報を仕入れました。私も「どうすれば選考試験に受かることができます

直前に、「ご縁という意味もあります」と言ってお世話になった方々に思い出しとして配ったのですが、とても喜んでいただくことができ、なかにはネットワークにする人もいたほどです。

**細田** マラリアや Dengue 熱の予防のために持っていた蚊よけスプレーは重宝しました。蚊以外の虫にも利くので、部屋で蟻が大量発生したときや、部屋に蜂が入ってきたときなどにも効果が

**編集部** 協力隊経験によるご自身の変化のうち、重要だと感じているのは

協力隊経験を通じた成長



①配属先の同僚たちに心肺蘇生法のやり方を指導する協力隊時代の細田さん（左から2人目）  
②細田さんの任地。托鉢に回る僧侶たちの姿は、ラオスの朝の象徴だ  
③協力隊時代の細田さんの自宅。外国人用につくられた戸建て住宅だった

「『家族と一緒に過ごすこと』の価値を考えさせられた」

「つまづく経験を通じて『柔軟性』を得ることができた」





①小学5年生の算数の授業で、練習問題の解答をチェックする協力隊時代の萩原さん  
②鶏を手に任地を歩く萩原さん。児童の家に遊びに行くときよく、保護者に鶏を丸ごとプレゼントされた  
③協力隊時代の萩原さんの自宅からの眺め。目と鼻の先に配属先の校舎(奥)があった

## 「『今』を大切にすることの大切さを教わった」

のようなものでしょうか。

**荒井** 私の場合は、「柔軟になった」と「かな」と思います。派遣前の私は、「こうするべきだ」という仕事の理想を実現しなければ気が済まず、「妥協」が許容できないタイプでした。社会人になってから協力隊に参加するまでの5年間、理想をそれなりに実現しながら仕事をすることができていたので、変な自信が付いていたのだと思います。ところが、協力隊では始めからそれが叶いませんでした。「現地に根付く変化をもたらすためには、自分が動くのではなく、現地の人に動いてもらうべきだ」という理想を掲げて赴任したので

すが、実績も信頼もないので、現地の人には「どうしてそれをやらなければならぬのか?」「どうしてきみの言うことを聞かなければならぬのか?」などと言われてしまい、彼らを巻き込むことができなかつたのです。

そんな状態が1年くらい続いた後、ようやく「自分は動かない」という理想を追うのをいったん止めてみようと思えるようになりました。そうして、商品やパッケージ、ロゴなどを自分で作り、現地の人たちに見せるようになったのですが、そこでようやく彼らと一緒にプロジェクトに取り組めるようになりました。派遣前の仕事で理想を

実現することができていたのは、会社が整えた環境や、会社が蓄積してきたノウハウがあったからこそなのだ、そのときに初めて気づくことができたのでした。

そうした経験を通じて、理想の状態がなかなか実現できなくても、まずはそれを受け入れたうえで、「より良い状態にしていくにはどうすれば良いだろう」と冷静に考えていく柔軟な姿勢が身に付いたと感じています。現在配属されているのはCSRの担当部署で、環境への負荷が小さい商品開発や事業のやり方などを考えることが主な仕事です。さまざまな部署や生産委託

それまではたとえば、同僚の看護師に「この患者さんは回復してきているので、吸入する酸素の量を減らしたほうが良い。そう医師に進言しよう」となどとアドバイスをして、「私たちにはできない」と拒絶されてしまうばかりでした。ラオスは「看護師が医師に意見を言う」ということなどできない

環境だからです。そういう事態に対し、以前は手をこまねいているだけだったので、先輩隊員にアドバイスももらった後は、心肺蘇生法など同僚たちに受け入れてもらえるような技術の伝達に力を入れようと発想の転換ができるようになりました。

### 「生き方」を考えさせられた

**萩原** 私は、「今」を大切にするというウガンダ人の生き方を学べたのがとても大きかったと感じています。若くしてエイズで亡くなること、あるいは離婚により実の親がどこかへ行ってしまうことなどが少なくない社会ですから、今、目の前にいる人とジョークを飛ばし合えることに喜びを感じ、その時間を存分に楽しむ。お金がたくさんあるわけではないからこそ、彼らの生活では「人とのつながり」という人間にとって本当に大切なものはつきりに見えるのではないかと思います。日本のように物がたくさんあると、本当に大切なものがそれらのなかに埋もれ見えづらくなってしまうのではないかと。「目の前のことしか考えないと、先々の発展はない」という意見もあるかと思いますが、「発展」を求めすぎるとあまりに「今」を疎かにしてはいけないのだと、あらためて感じました。人生は結局、「今」の積み重ねだからです。

**荒井** 私もドミニカ共和国の人たちに對してまったく同じことを感じました。「今」を楽しんで生きています。私の

任地は、映画館はおろか、ショッピングモールすらなく、住民の娯楽と言え、ドゲームやおしゃべりをするのでした。彼らは「癖のようにアメリカ人のお金があつて良い」と言いますが、私から見れば、「十分楽しんでるでしょ」と思うわけです。

**萩原** 今のお話は強く共感します。赴任して1年ほど経ったころ、私が授業をしていた4年生のクラスの先生の誕生日に、クラスの子どもたちに「メッセージカードを書こう」と呼びかけたのですが、彼らは「ケーキを買いたい」と言って、ひとり1円ずつ出し合つて小さなケーキを買いました。しかし、80人もいるクラスでしたので、全員で分けるとひと口ずつになつてしまつてしまいます。それから1年経ち、帰国が近づいた時期に、同じクラスの図工の授業で「自分の幸せ」をテーマにした絵を自由に描かせたのですが、「みんなで一緒にケーキを食べたことがうれしかった」と言つて、1年前のシーンを描いた子がいたのです。そのときに思った

のは、食べたケーキの量ではなく、みんなで楽しさを共有できたこと、その空気を幸せに感じたのだらうということでした。

**細田** 今のお話に通じることを、私はラオスの医療現場で考えさせられました。ラオスの病院では、入院患者にかならず家族の誰かが付き添い、お世話

### 今後の人生プラン

**編集部** 今後、協力隊経験を糧にどのような人生を歩んでいきたいと考えていますか。

**荒井** さきほどお話ししたとおり、アシックスの創業哲学である「スポーツを通して青少年の心身における健康」への貢献に具体的に携わるチャンスを見つけていきたいと思っています。また、弊社は今、「ダイバーシティ」の充実を進めています。職場の人材の多様性を増す取り組みで、有志社員によるプロジェクトなどもあるので、そういうところにも積極的に関わってきたいと考えています。異文化社会で暮らす協力隊は、まさに人間の多様性について考えさせられる機会であり、その経験を持つからこそ発信できることがあるはずだと思うからです。

**細田** 私は帰国したばかりのころ、この先何がやりたいのかがまったくわからなくなつてしまつたので、ラオスに戻つて2カ月間、現地のラオス人の友人の家にホームステイをさせてもらいました。協力隊時代の大家さんの親戚の女性です。その子は家政婦をしてお

先工場の人とかかわっていく仕事であり、始めはこちらの提案がなかなか受け入れてもらえないことも多々あります。そうした場合でも、辛抱強くより良い解決策を模索し続けることができているのは、協力隊の経験があるからこそと感じています。

**細田** 「協力隊経験によって柔軟になつた」という点は、私も同じかもしれません。日本の医療現場では、「床上30センチ以内は不衛生」という意識が徹底されており、私自身も「潔癖症」に近いタイプでした。ところが、配属先は砂埃がひどいなど、日本では考えられないような衛生環境でした。そのようなところで日本の看護技術を伝えても「焼け石に水」ではないか、私の存在意義などないのではないかと、当初は非常に悩みました。それを抜け出すきっかけを与えてくれたのは、助産師の職種で活動していたラオスの先輩隊員からもらった、「ここで自分の存在意義を考え出したらやっつけていけない」というアドバイスです。ラオスの一部の病院では、死産で出てきた赤ちゃんの処置の仕方目にあまる光景が見受けられることもあったようで、その先輩隊員も活動を始めた当初は相当悩んだそうです。けれども、「やれることをやるしかない」と考えを改めてから、前に進めるようになったということでした。私はその話を聞いた後、とにかく自分ができることに取り組み、それが無意味だと感じたら別のことに取り組んでいくという、気長な気持ちで活動に取り組むことができるようになりました。

をします。また、回復の見込みがない患者さんは、自宅に帰り、家族に看取られながら亡くなります。日本では、基本的に患者のお世話はすべて看護師や介護士が行い、病院で亡くなるのが一般的です。両者を比較し、「家族と一緒に過ごす」という価値について考えさせられました。

り、私はその仕事現場を見させてもらつたり、彼女といろいろな話をしたりしました。彼女は田舎の貧しい家の出身で、仕事を自由に選べるような状況にありませんでした。そういう彼女と一緒に過ごすなかで、ようやく「やりたいことがわからない」などと甘つたれたこと言っていたらだめだ」と思い直すことができました。そうして現在は、国際救援の領域で看護師として働くことを目指しています。

**萩原** 私は「目の前のことに一生懸命取り組み、次のことはおのずと見えてくる」という信念で、新卒での就職もやめて協力隊に参加しました。実際、協力隊活動に一生懸命取り組み、現地のコミュニティにとことん深く入り込んだからこそ、さきほどお話ししたとおり、「もつとも大切なのは現場を知ることだ」という国際協力に対する考え方の軸を得ることができました。それを土台に国際協力の仕事をしていくことができればと考えています。

**編集部** ありがとうございます。





# To-Do リスト

JICA海外協力隊への応募に至るまでにやらなければならない基本的な事柄を列挙しました。各項目の詳細はJICAのウェブサイトでご確認ください。

## 応募資格

- 年齢条件（応募期間最終日の年齢が基準）がクリアできる応募期を確認してください。
- 「日本以外の国籍を持つ」「日本以外の国の長期滞在資格を持つ」「裁判が係属中」「破産手続き中」のいずれかに当てはまる場合は、応募前にJICA海外協力隊募集事務局に連絡してください。

## 職種・案件

- 「長期／短期」「一般案件／シニア案件」のいずれの派遣区分に応募するかを決めます。
- 派遣区分に応じて、応募する職種／案件を決めます。「長期・一般案件」は職種への応募（複数職種可）、「長期・シニア案件」は案件への応募（複数職種可）、「短期」は案件への応募（複数職種不可）です。

## 家族・職場

- 選考の可否通知文書は応募者調査の「家族連絡先欄」に記載された住所に郵送されることから、海外在住の場合などは記載住所に住む人に連絡してください。
- 現職参加を希望する場合は、職場に相談し、派遣に向けた休暇等の調整を進めてください。要件に合致すれば、「現職参加促進費」の制度も利用できます。

## 体力

- ご自身の健康状態について、日本と異なる生活・医療環境で生活することを前提に、主治医に相談しておいてください。
- 指定された期間内に健康診断を受け、応募時に提出する健康診断書（指定様式）を準備してください。
- 派遣に必要な予防接種は、合格後の案内に従って受けていただきます。

## 語学力

- 希望する案件の選考指定言語（英語／フランス語／スペイン語など）につき、指定の検定試験で必要なレベルのスコアを取得してください。最低限必要なレベルは、英語の場合、「TOEIC®のスコアが330点以上」などです。
- 検定試験の結果を証明するもの（語学力証明書）を入手してください。

## 技術力

- 希望する案件で求められている技術・免許を習得・取得してください。
- 希望する案件で求められている経験（実務経験・教員経験・指導経験・競技経験）を積んでください。

## お金

### NOT NECESSARY

- 派遣中の現地での生活費については、国ごとに定められた金額の海外手当が支給されます。また、住居は相手国政府またはJICAが準備します。
- 国内手当は、属性により支給内容が異なります。
- 派遣中の処遇については、訓練中のオリエンテーションなどで詳しく案内します。

## その他

### NOT NECESSARY

- 原則として、パスポートは合格後にJICAで発給手続きを行います（公用旅券）。ただし、90日以内の短期派遣の場合は、ご自身のパスポート（一般旅券）で渡航していただくことになります。
- 選考に合格した後に必要となる「年金」「健康保険」「住民票」「税金」などの対応は、お住まいの市区町村の役場や年金事務所に照会してください。

## 情報

- JICAボランティア事業全般について、JICAのウェブサイトなどで情報を入手し、整理しておいてください。

### NOT NECESSARY

- 各派遣先の現地情報（治安、交通、医療、生活事情等）については、派遣前訓練中や着任時オリエンテーションなどで最新の情報を提供します。



# 「選考」のココが変わりました



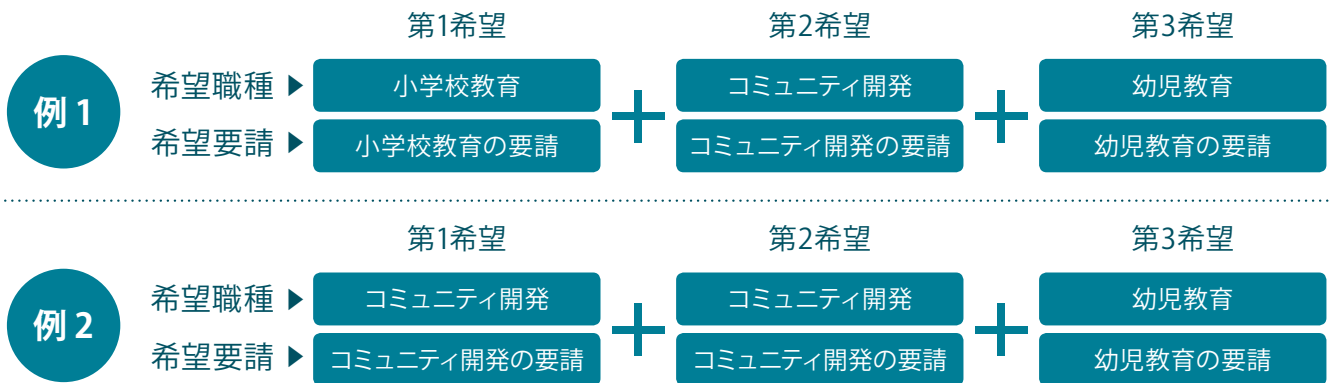
★2020年春募集期の  
プレントリーを  
開始しました。



募集期間に先立ちプレントリーができます。  
応募に役立つ情報、隊員の活動事例、帰国後進路、  
JICA海外協力隊に関するニュースなどを配信しています。

★一般案件への応募では、  
希望職種・希望要請をそれぞれ3つまで(※) 選択できるようになりました。

※ただし、二次選考(面接)は1職種です。



★受験者毎にマイページを  
発行しています。

プレントリーを完了された方の個人専用ページです。

- 募集に関するお知らせを受け取れます。お知らせは、マイページのレターボックスで管理。
- 応募もできます。選考に必要な書類の提出や選考結果の通知もマイページでできちゃいます。
- 選考に必要な書類の提出や選考結果の通知もマイページを通じて行います。

★詳しくはこちらまで!

JICA海外協力隊ウェブサイト  
<https://www.jica.go.jp/volunteer/application/>



「選考担当者から」  
JICA海外協力隊  
ウェブサイトを積極的に  
活用してください!

応募に関して受ける相談で多い質問は、「職種選び」についてのものです。職種選びで迷ったときは、ご自身の経験・技術を振り返り、しっかりと整理したうえで、JICA海外協力隊ウェブサイトの「シゴトを探す/職種選びのヒント」のページをチェックしてみてください。また、「現地で自分は何ができるのか、何がしたいのか」を具体的にイメージすることも大切です。

応募にあたって不安や疑問がある場合、ご自身の中で解決しておくことも大切ですが、ご家族など周りの方が不安や疑問を持っている場合もあります。そうした方々の理解を得るためには、JICA海外協力隊ウェブサイト「ご家族の方へ」のページなどが参考になるでしょう。

派遣先で力を発揮するために何より大切なのは「健康」。応募を決めたら、日頃から健康に留意し、どのような国・環境でも対応できる体力をつけておきましょう!



## 派遣前

### 訓練所に入る前

長期派遣者向け訓練でスムーズな学習を可能にするために、訓練所に入る前にインターネット上での語学の事前学習や、技術・技能の向上のための研修制度を設けています。



事前学習…インターネット上で学べる語学教材（eラーニング）などを用意。



技術補完研修（対象者のみ）…受入国からの要請に的確に応えることができるよう、実務的な技術・技能の向上および教授法習得のための研修を実施。  
講座事前学習…JICA海外協力隊として国際協力活動を行うために、必要な基本知識をインターネット上で学べるように教材を用意。

※ 事前学習や研修のほかに、訓練所に入る前には、訓練所入所のための事前書類の提出（期限厳守）や、予防接種・健康診断の受診などの準備があります。

### 長期派遣者向け訓練

派遣前に実施される訓練では、現地で円滑な活動を行えるよう、語学講座をはじめ、安全・健康管理意識や異文化理解を促進する内容の講座を用意しています。詳細は14ページをご覧ください。

## 派遣中

派遣中は現地に設置されたJICA事務所（※1）が安全面・健康面を含めて支援を行います。



派遣国に到着後、訓練所で学んだ語学または現地語をより実践的に活用するため、1カ月程度学びながら現地の生活に慣れていく。



各分野の技術に精通している技術顧問（※2）を青年海外協力隊事務局（※3）に配置。隊員が技術面で困難な問題に直面した際に、アドバイスを求めることができる。  
また、現地で活動・生活するうえで参考となる実践的な情報、帰国後の進路開拓や協力隊経験の社会還元に有益な情報が掲載された「クロスロード」も毎月発行されている。



赴帰任の旅費、現地生活費はJICAが支給。住居は相手国政府の提供、またはJICAで用意。



現地の治安状況、渡航情報、犯罪防止策、交通安全対策などの情報提供のほか、通信連絡手段の確保、必要に応じて住居の防犯対策強化を行うなど安全面をサポート。



在外健康管理員（日本の看護師免許取得者）を配置し（※4）、現地での健康管理に関する相談、病気・医療情報の提供、傷病発生時の対応などを行う。また、現地医療機関や医師とも連携しながらサポート。

※1 派遣国の業務の規模により、支所となる場合があります。  
※2 職種によっては配置がない場合があります。  
※3 青年海外協力隊事務局…JICAボランティア事業の実施機関。日本のJICA本部（東京都）にある。  
※4 派遣国によっては配置されていない場合があります。  
\* 単身者の派遣を想定した制度です。  
\* 長期と短期によって待遇が異なります。

## 帰国後

帰国後、進路開拓や社会還元活動を支援するための制度などを設けています。

※ 長期派遣者を対象としています。

### 進路相談カウンセラー／青年海外協力隊相談役の配置

就職・進学をはじめとした各種情報の提供や、帰国後のキャリア相談に対応する人員を全国に配置。

### 自治体・企業向け帰国報告会・交流会の実施

帰国隊員の活用を考える自治体および企業が集まり、帰国隊員と交流する会を開催。この会がきっかけで新たな進路を見いだす人も。

### 帰国後研修の実施（※）

隊員経験の振り返り、整理を行ったうえで、帰国後の進路開拓・職場復帰、社会還元を円滑に進めていくための研修を実施。対象者は帰国後1年以内の隊員、開催の目安は帰国後1カ月。

※ 自治体・企業向け帰国報告会・交流会と同時期開催。

### 教育訓練手当の支給

帰国後の進路開拓に役立つ技術・技能の習得または免許・資格の取得につながる教育訓練に対して、JICAが経費を支援。

### 進路情報ページによる情報提供

国際協力キャリア総合情報サイト「PARTNER」で帰国隊員だけを対象にした求人情報を提供。

### JICA海外協力隊経験者等優遇措置

近年、JICA海外協力隊の経験を評価する自治体、教育委員会、大学が増加しています。協力隊経験者に対し、特別選考制度を設けている自治体や教育委員会、また入試などで優遇措置を採っている大学・大学院については、JICA海外協力隊ウェブサイト内の「JICAの支援制度」をご覧ください。

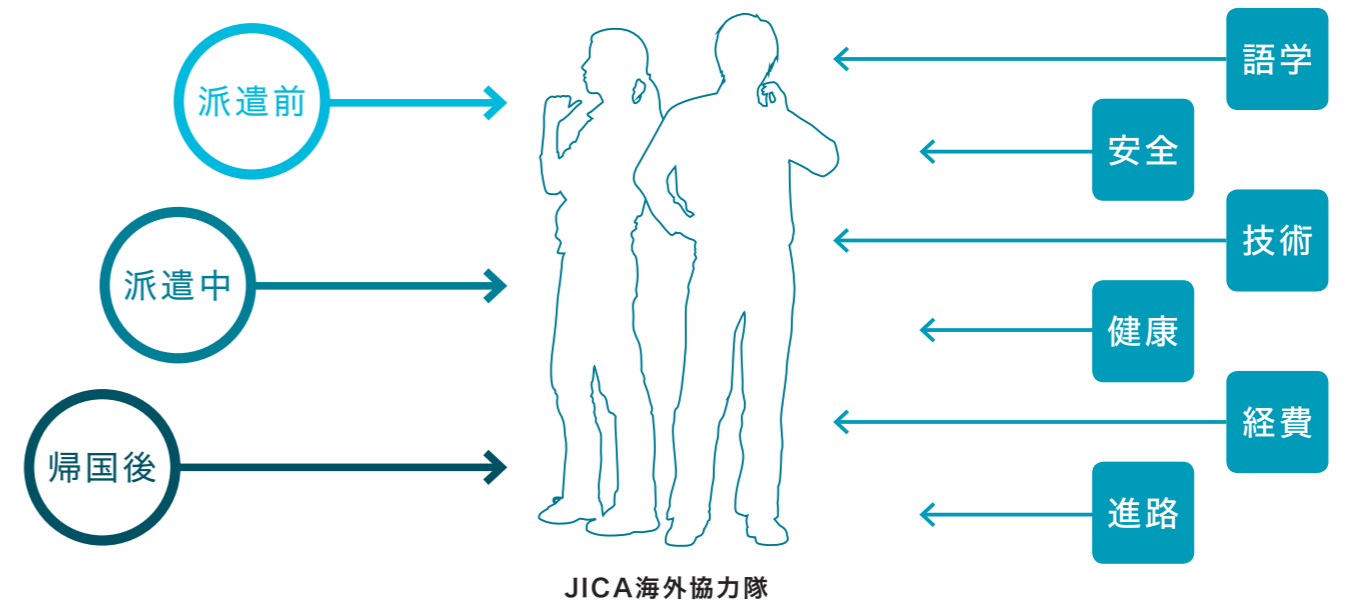


写真提供：渋谷敦志 / JICA

# JICAのサポート体制 & 短期派遣の紹介

## JICAのサポート体制

JICAでは、派遣前・派遣中・帰国後の各段階で、JICA海外協力隊をバックアップしています。ここではその主なものを紹介します。参加への不安が少しでも軽減されるよう努めています。



## 短期派遣の紹介

JICA海外協力隊（短期派遣）は、アジア・アフリカ・中南米・大洋州・中東の国々で1カ月から1年未満の活動を行います。「自分の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々のために生かしたい」という強い意欲を持った方を募集しています。短期派遣は一般案件とシニア案件の併願が可能です。応募にあたっては、5年以内に取得した語学資格が必要となります。応募期間は「3月～、8月～、11月～（予定）」です。募集や要請に関する情報は応募期間初日に公開します。詳細は以下のウェブサイトをご覧ください。

- 青年海外協力隊（短期） ▶ <https://www.jica.go.jp/volunteer/application/short-seinen/>
- シニア海外協力隊（短期） ▶ <https://www.jica.go.jp/volunteer/application/short-senior/>



## 2 地域実践

「地域実践」講座では、派遣後、即戦力として活動できるように、街に出て市民にインタビューをして課題を見つけ、改善策を提案する訓練を行います。また、活動を円滑に進めるために、活動管理手法、プロジェクトマネジメント、コミュニケーションの基礎、ファシリテーションの基礎、協力活動手法なども学びます。

実際に地域の人たちの元に赴き、耳を傾けることの大切さを知ろう！



## 3 国際理解

「派遣国研究」「異文化適応」などの講座では、ワークショップなどをとおして国際理解力を学びます。「任国事情」講座では、最近帰国した同じ派遣国の協力隊経験者から派遣国の情報を教わります。

「異文化適応」講座では、語学とは違ったアプローチでワークショップが実施され、楽しくも考えさせられるものでした。

## 4

## 安全・健康管理

テロなどを想定した「安全管理」の訓練も必須。そのほかに派遣国での健康管理や救急法、海外における交通安全、安全対策などを学びます。

## 最新版“派遣前訓練”

# 訓練所で学べる5つのモノたち

JICA海外協力隊の選考に合格した隊員候補者（以下、候補者）は派遣前に、70日間の長期派遣者向け訓練（集団合宿制）を受けます。場所は、長野県駒ヶ根市の駒ヶ根訓練所、もしくは福島県二本松市の二本松訓練所。この訓練で何を学ぶのでしょうか？ JICA青年海外協力隊事務局に勤務する青年海外協力隊経験者の角雄介さんに教えてもらいました。

現地での活動への不安は訓練所生活で解消しよう！



参加促進課 角 雄介

プロフィール●1980年生まれ、埼玉県出身。2015年9月から2年間協力隊に参加。セネガルの地方都市にて、農業支援を行う。帰国後は青年海外協力隊事務局参加促進課に勤務し、JICAボランティア事業の広報業務を担当。

## 概要 訓練の概要

目的

派遣国で必要となる言語を習慣化し、規則正しい生活習慣を身につけ、仲間とともにお互いを高め合える人間関係を構築します。また、国の代表として活動するという責任と誇りを自覚することを目的としています。

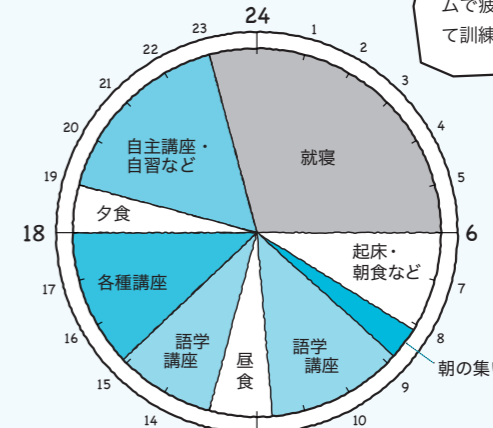
訓練の場所



訓練期間

70日

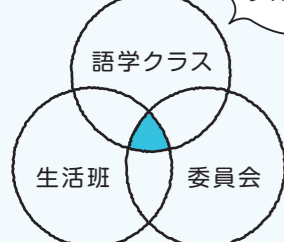
一日の流れ (一例)



ごはん、お風呂、睡眠タイムで疲れた身体を癒やして訓練に臨もう！



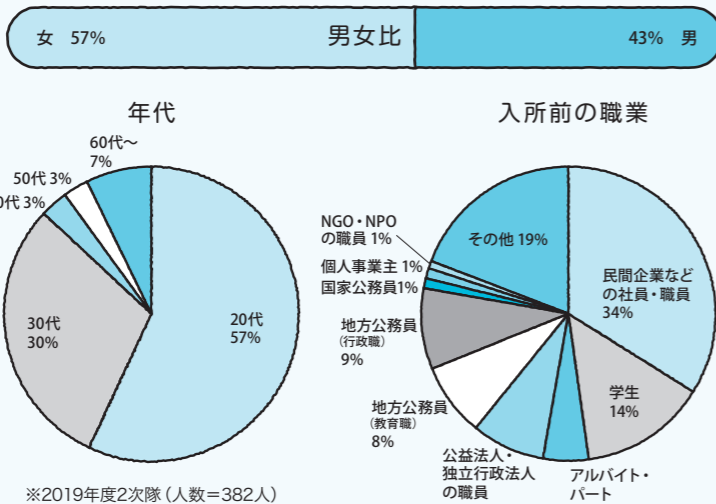
候補者が所属するグループ



- 語学クラス：同じ語学を学ぶ4～6人程度のグループ。同じ国に派遣されることが多く、一緒に過ごす時間も長い。
- 生活班：訓練中の生活を円滑に進めるための班。17人程度で構成され、それぞれ、班長・副班長・図書委員・体育委員など役割を担う。朝晩の点呼は、生活班ごとに行われる。
- 委員会：生活班で分担した役割で委員会が構成され、週に1度会議を行う。

## 5 仲間の大切さ

候補者分類※



1度に入所する候補者の数は1つの訓練所に100～200人。年齢も職業も出身地もバラバラです。候補者はいくつかの異なるグループに所属して訓練に取り組みます。集団生活の中で共に励まし合い、高め合うなかで、「生涯の友」を獲得する人たちが数多くいます。



## オマケ

角さんが話すこんなものもカク！

いくつもの出会いのなかから、「運命」の出会いが！

想像してみてください。派遣前訓練は70日間、さまざまなバックグラウンドを持つ老若男女が「派遣」という目標に向かって共同生活をして過ごします。訓練といっても机に向かって学ぶだけではなく、時に身体を動かし、時に熱く議論をし、喜びや苦労を分かち合う……。そんな濃密な空間はさまざまな出会いを演出します。「マジック」や「イリュージョン」のように言う人もいますが、普段の生活ではなかなか身を置くことのできない環境を経て、その後の現地での活動、そして人生の糧となるものを得ることができます。ぜひ応募、合格して濃い70日間を経験してください！

ぜひご応募ください！



青年海外協力隊事務局スタッフたち

## 1 語学

語学の講座は、短期間でより高い成果を上げるために、4～6人程度の少人数クラス制。基礎的な日常会話から専門技術分野に至るまで、講師による語学の特訓を集中的に行います。候補者の多くはそれまで縁のなかった言語を学びますが、授業と自主学習で現地での活動や生活に必要な語学力を身につけていきます。



セネガルに派遣された私が学んだのはフランス語。初めて学ぶ言語で、久しぶりに脳みその限界に挑んだ感じがした。

語学講座 時限

240コマ

約200時間

※1コマは50分。 ※語学力や過去のJICA海外協力隊経験の有無など、一定の要件を満たす場合には、長期派遣者向け訓練に代えて語学訓練免除者向け訓練(4日間)を受ける場合があります。

訓練・訓練所を詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

▶JICA駒ヶ根



▶JICA二本松



▶訓練所ってどんなところ？





## 活動初日～1カ月を振り返る

「何かを変える!」と意気込んで出勤した初日。と思ったのもつかの間、活動先はベテランの助産師2人で成り立っており、要請にあったスタッフの指導・教育などを私がする必要はありませんでした。「優しい助産師」と「厳しい助産師」がいて、赴任当初は厳しい助産師しかおらず、何もやらせてもらえなかったどころか、口もきいてもらえない状態。加えて、患者さんは英語ではなく現地語で話すため、話しがまったくわからず、焦りと孤独を感じていました。しかし、異国から来て急に「ここは改善したほうが良い」という方がおかしな話です。焦る気持ちを一度手放し、徹底的に同僚助産師の動きを見学。母子保健の制度を把握し、技を見て盗み、何でもメモをとり、しつこいくらい質問しました。また、すべての人を現地語の先生として、わからない単語や文を聞いてはメモをとり記憶して使用。私の2年間の基盤は、このとき築いた信頼関係にあると思っています。

特に苦勞したのは同僚助産師との人間関係だ。責任感が強く、仕事は丁寧で尊敬すべき人である一方、厳しく、気難しく、あいさつも返してくれない人だった。西さんは彼

### 経験と出会いは一生の宝

技術指導や地域住民への母子保健の啓発活動などが要請内容だったが、人手不足の現場でいち助産師としての活動が始まった。西さんは、目の前の命を守る準備と覚悟を忘れずに、毎日現場に立った。どんな患者も受け入れ、最善を尽くす。現地の助産師たちは、医師も医療機器もない過酷な環境で、五感だけを頼りに多くの命を見つめていた。「先端医療で学び育ってきた私の提案が受け入れられるはずもなく、従来のやり方や意識を変えるのも難しい。彼らを尊重しながら働く、それが私の学んだことです」

現地の人と同じ生活をし、同じものを食べ、活動した。西さんの活動の姿勢は、医療者のみならず、患者とその家族、郡全体の信頼関係へとつながったという。

「それが私の2年間の成果なのかもしれない。協力隊での経験と出会いは一生の宝物です」

大学で講義で青年海外協力隊員だった助産師から「非常事態が日常になった国で母児の命を救いたい」という話を聞き、将来を決めた西さんに衝撃が走った。貧困・災害・戦争、どんな状況下でも必ず命は生まれる。そう思ったとき「助産師になり、いつか海外で活動しよう」と決意。約10年の経験を積み、協力隊に参加した。

ガーナ東部の郡にあるコミュニティレベルの保健医療施設で助産師として活動した西さん。同郡は医療環境に数多くの問題を抱えていた。14万人の人口に対し、病院がなく、医師もおらず、助産師も不足していた。施設の整った医療施設は遠く、道のりは悪路。住民は貧しく、経済的理由から医療施設への搬送を断る人もいる。現地助産師への

※西さんのニックネーム。



新生児健診をする西さん。自分のことを知ってもらいたいため、大きな名札を首から下げて、職場でも街でも過ごした。

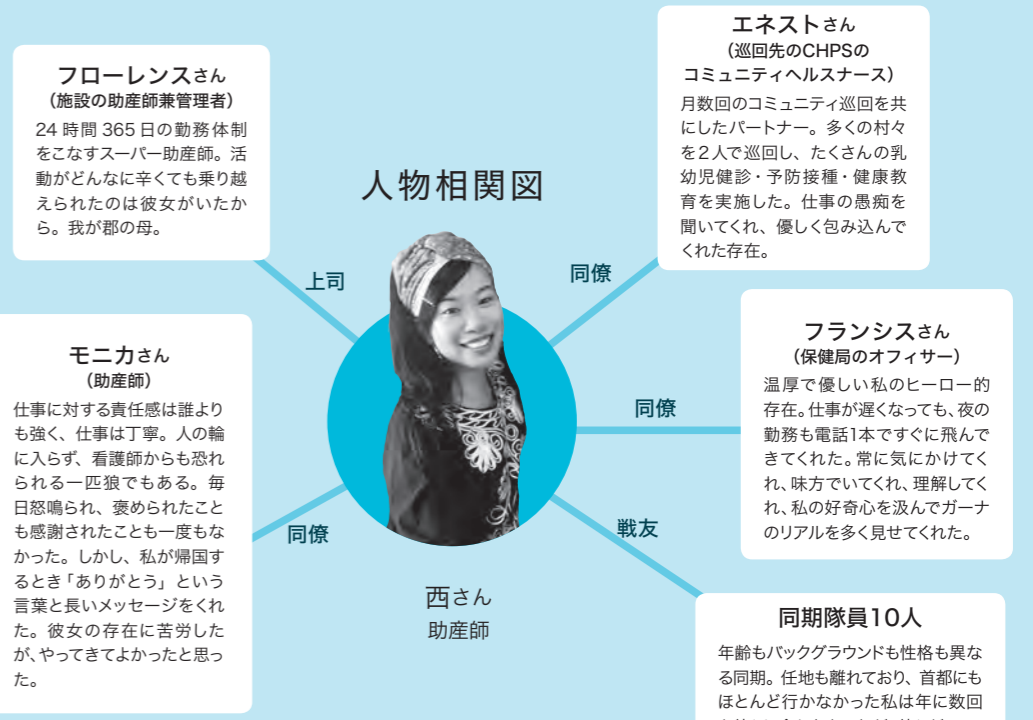
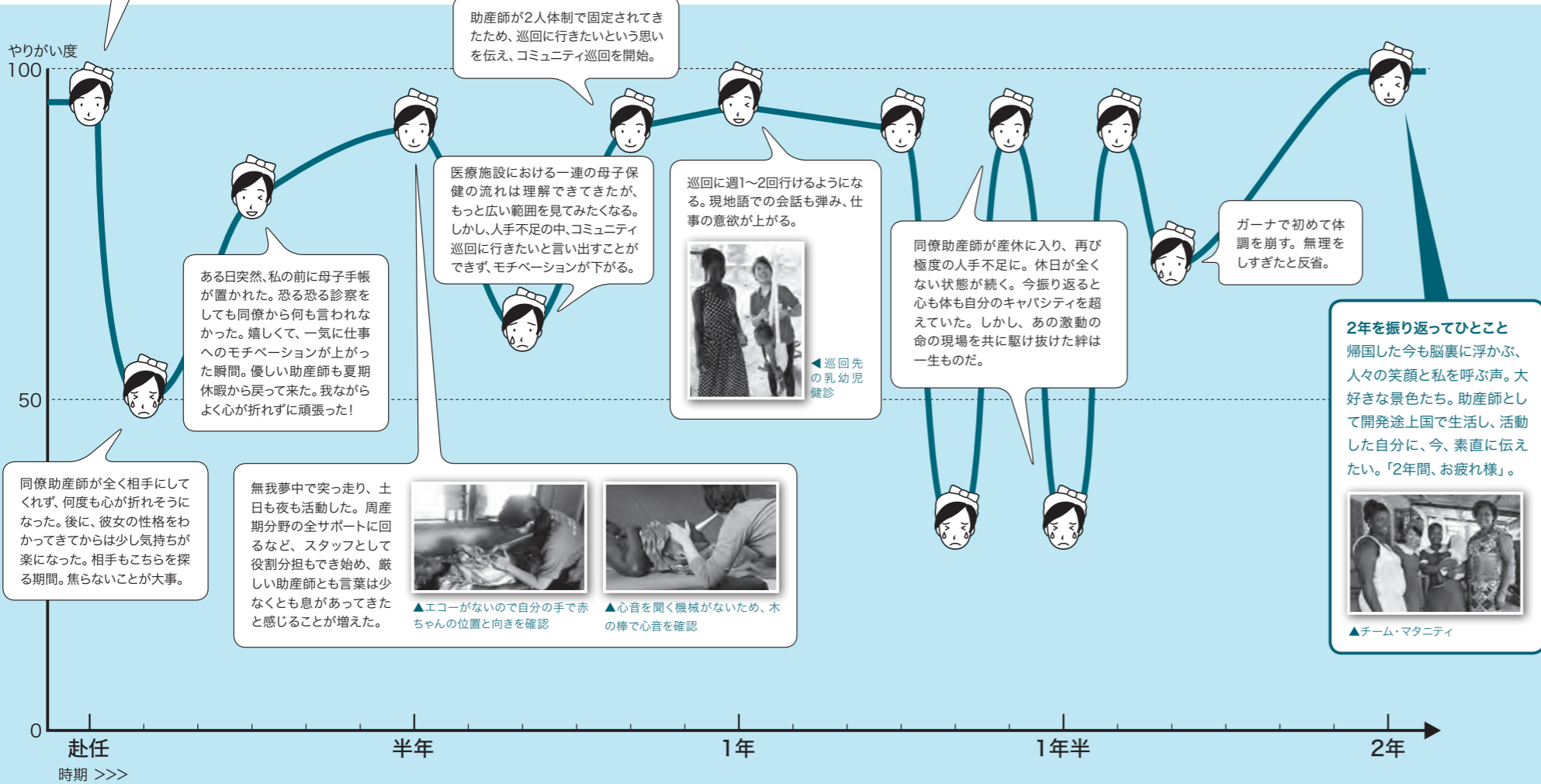
# JICA海外協力隊の「やりがい曲線」

～苦あれば楽ありの2年間～

やる気十分!で活動に着手しても、異なる環境と文化の中での生活・活動では、ときに悩み、涙し、笑い、喜ぶ、想定外の日々が待っています。隊員たちの「やりがい」は、派遣中にどのように変化したのか、2人の事例を紹介します。

## 助産師として 激動の命の現場を 同僚とともに駆け抜ける

西菜実子さん  
(ガーナ・助産師・2017年度1次隊)



### 西さんのプロフィール

1982年生まれ、福岡県出身。東京の大学の看護学科を卒業した後、助産学専攻科へ進学し、大学院で7年間助産師として勤務。その後15カ月間の世界一周の旅へ出発し、観光地ではない僻地を主に巡回。帰国後は離島と個人病院で助産師として2年半働いたのち、2017年6月、青年海外協力隊員としてガーナに赴任。19年6月に帰国。現在は入職当時の都内の大学病院へ再就職し、助産師として勤務。

### 活動概要

配属先：ガーナ保健局クラチイスト郡  
マダムニエトCHPS (チップス、Community Based Health Planning and Service: コミュニティベース保健計画・サービス)  
主な活動：CHPSを拠点に、助産師として以下を目標として産科全般の活動を行う。  
●妊産婦指導の向上  
●若年妊娠の低下  
●妊産婦ケアの向上



## 活動初日～1週間を振り返る

配属先に行ってみたものの、具体的な活動内容がわからず、指示も説明もなく、おまけに誰も私を信用していません。後になってわかったことですが、前任者は会話を多くするタイプではなかったようで、私も同じタイプだと思われていたようです。まずは、倉庫内作業をしている女性たちに混じり、彼女らの手伝いをしながら、動向を観察しました。すると何年間も放置されているワクチン用冷蔵庫が設置されており、捨てるにも方法も場所も方法もないこの国では、そのままになっていました。これを復旧することから始めようとしてCPのスコットを巻き込んで活動を開始しました。初めて見るタイプの冷蔵庫で、資料の保管もなく、インターネットで探した数少ない資料を参考に、1週間かけて

復旧に成功。これによりNMSの信頼を得ることができ、活動が広がりました。



▲同僚でCPのスコット

であるカウンターパート（以下、CP）を巻き込んでそれを復旧させることから活動を開始する。最初に手掛けた冷蔵庫を復旧させ、再稼働に成功すると、このことがNMS所長の耳に入り、ガダルカナル島の各医療場所に設置されていた故障冷蔵庫の修理依頼が舞い込み、修理のために出張するまでに活動が広がっていった。

数カ月後、今井さんはある島のCC担当作業員が冷蔵庫を修復できずにいるという情報を得る。技術移転の良い機会と捉え、CPと一緒に出張へ行くことにした。

「CPには、故障内容の把握、その内容から考えられる要因の想定、現地での修復方法の策定、必要な電気図面の作成、工具・部品の確保等作業の流れを指示しました」

不可解な現象に見舞われ、その場での復旧が叶わずNMSに持ち帰り、原因を究明することに。メーカー設計不良もあり、直接原因を改善させ、冷蔵庫の復旧を行った。「この一連の活動がCPにとって良い経験となったようです」と今井さんは話す。

その後、各島の担当者からの質問に答えて技術向上に努めるなど、現地の人が望むことを主として活動した。集めた情報は自分の帰国後も活用できるように、Q&A集等にまとめて配布。活動を振り返り、一番の変化を感じたのはCPだったそうだ。

「私の赴任前から島の担当者から相談や質問を受ける立場にあった彼は、保有している冷蔵庫を送り、不具合発生冷蔵庫を返却させることを主の対応としていました。私の赴任後は修理を考えるようになり、状況を把握し、修理の指示を出すようになった。それでも解決できないときは、私を同行して島を訪れ、島の担当者と一緒に修理をするようになりました。少しだけでも意識を変えることができたのかなと感じています」

CPからは現在も連絡があり、質問に答えているという。今井さんは今後も自身の技術を生かし、必要とする人と機械に、知恵と技術を伝えていきたいと考えている。

\*2 カウンターパート…技術協力の対象となる、派遣国の行政官や技術者、配属先の同僚などのこと。

大洋州にある大小約1000を数える島々からなるソロモン諸島。今井さんは、ソロモン国立薬劑管理センター（以下、NMS）に配属され、コールドチェーン（以下、CC）部門で活動することになった。

CCとは、医薬品等の輸送・消費の過程で低温に保つ物流方式を指し、活動先では全島のワクチン用冷蔵庫等のCC機材関連

の管理業務を担当している。ワクチンと機材はユニセフから援助され、「機材を10年以上維持せよ」という要求があった。そのためには保守・点検を行い、機能維持が必要となるが、全島にはCC担当者はいらぬものの保守・点検・修理等の技術はない。故障時は新機材に交換し、不具合発生機をNMSに送り、冷凍機修理業者に対応させるという流れであった。そこで機能維持のための技術移転が求められていた。

ところが、赴任時に今井さんが配属先で感じたのは何も期待されていない様子がないことだった。そこでまず、医薬品倉庫内の様子を観察したところ、故障にて動かないワクチン用冷蔵庫を発見。CC担当作業員

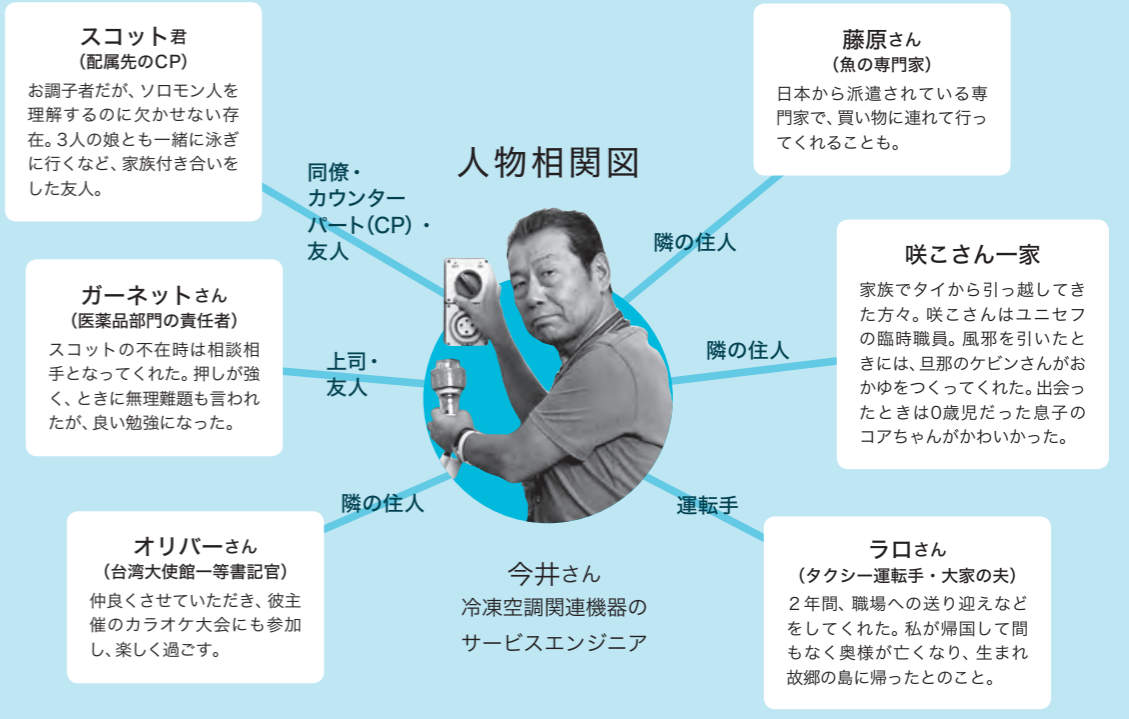
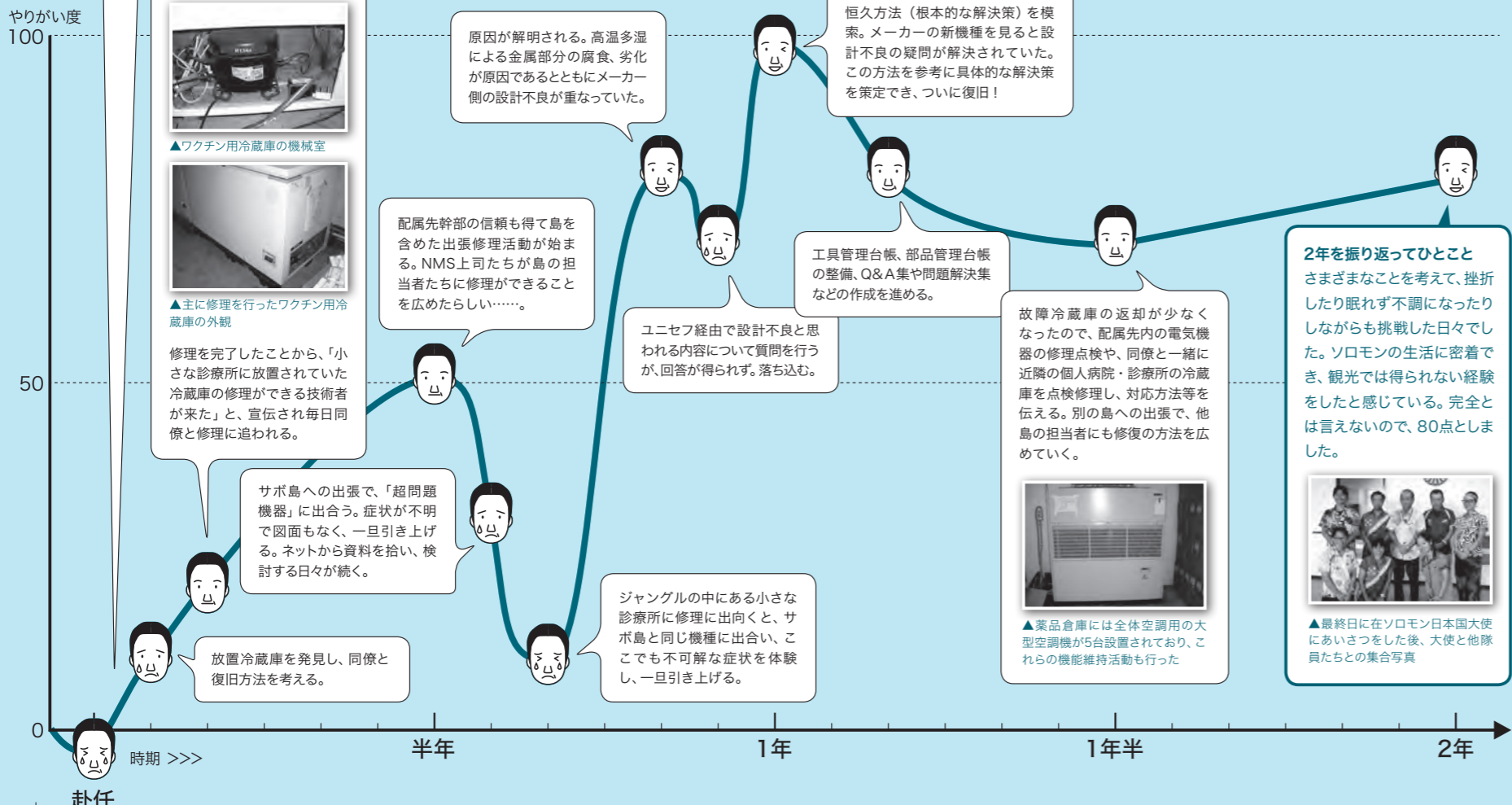
\*1 ユニセフ…UNICEF（国連児童基金）。世界190以上の国と地域で子どもの権利と命を守るために活動する国際機関。



冷凍庫の修理を行う今井さん。スイッチ、温度調節器、温度表示器など電気系統を中心に不具合発生部品を探し出す

## 定年退職を期に海外へ。サービスエンジニアの経験をソロモンで生かす

いまいかずお  
今井一男さん  
(ソロモン・冷凍機器・空調・2016年度4次隊)



今井さんのプロフィール  
1950年生まれ、北海道出身。北海道立札幌琴似工業高等学校を卒業後、三菱電機ビルテクノサービス北海道支社に冷熱機器のサービスエンジニアとして42年勤務。2011年より1年間、インドネシアで空調機の定期点検の指導を行う。17年3月、シニア海外ボランティア(※)としてソロモンに赴任。19年3月に帰国。

活動概要  
配属先: ソロモン国立薬劑管理センター (National Medical Store)  
主な活動: 全国の病院・医療施設で使用する医薬品、小型医療機材の購入・在庫・配送の拠点となるNMSでコールドチェーンの構築のため、主に以下の活動を行う。  
●ワクチン用の冷蔵庫の故障復旧の指導  
●定期的な点検の指導  
●薬品倉庫の電気関係維持

※派遣名称は派遣当時のものです。



CASE 01

てせんゆうすけ  
手銭勇輔さん  
(ペルー・野球・2014年度2次隊)

帰国後 民間企業社員  
(株式会社田部)



## 「外」に出て強まった 地元の魅力への思いから 里帰り就職を選択

[手銭さんプロフィール]

1991年生まれ、島根県出身。近畿大学産業理工学部卒。小学2年生から野球を始め、大学時代は産業理工学部硬式野球部に所属。2013年、大学3年生の冬休みを利用して短期派遣の協力隊員(野球)として1カ月間、ペルーで野球指導に従事。大学を卒業した14年の10月に長期派遣の協力隊員としてペルーに赴任。16年10月に帰国。17年4月、中国地方を中心に外食・食品事業や山林事業などを手がける株式会社田部(本社は島根県雲南市)に就職。

地元・島根の「外」を経験することで、「島根の魅力」への思いが強まった自分こそ、その発信のために何かしらの役割を果たせるはず。そうした考えから、手銭さんは長期派遣の協力隊を終えると、迷わず島根で仕事探しを開始する。そうして就職した株式会社田部(以下、田部)は、島根を拠点に外食・食品事業や山林事業などを行う、創業73年の企業だ。入社決断の決め手となったのは、同社が「島根の魅力」の継承・発信に力を入

[AFTER]

大学卒業後の最初のステップとして選んだのは、長期派遣の協力隊への参加。短期派遣の際、「日本の高い技術を教えるのだ」と気負うあまり、選手たちとの関係づくりがうまくいかなかったという「やり残し感」があったからだ。大学4年時に長期派遣の協力隊に応募し、卒業した年の10月、短期派遣のときと同じペルーに野球隊員として派遣され、野球の普及などに取り組んだ。

[BEFORE]

手銭さんが野球を始めたのは小学2年生のとき。大学2年生まで選手として活躍し、大学の3、4年時は所属していた近畿大学産業理工学部硬式野球部で「学生コーチ」を務めた。大学3年生の冬休みには、「野球」の職種で協力隊の短期派遣でペルーに赴き、1カ月間にわたり各地の野球クラブで指導に取り組んだ。協力隊は、中学時代にテレビ番組でその存在を知って以来、憧れだった。

手銭さんが就職してからこれまでの約3年間に携わってきたのは、田部が持つ飲食店や養鶏場の管理。そうした仕事で、協力隊経験で鍛えられた「コミュニケーション」の力が武器になっていると、手銭さんは感じている。

「協力隊時代、米国など各国から来た野球コーチと共に活動しました。彼らとは野球技術に関する議論を幾度も重ねたのですが、常に彼らは私の意見に耳を傾けたうえで、『私はきみとは違ってこう考える』と主張する。そうした経験を通じて、『相手の意見をしっかりと受け止めて、自分の意見を明確に伝える』ということができました。それが今の仕事のなかでも、同僚やお客様との信頼関係づくりの土台となっています」



▲田部の社員として同社の養鶏場「たなべ森の鶏舎」の管理を担当していた時期の手銭さん

▶協力隊時代の手銭さん(右から5人目)。活動地での野球の普及活動が認められて新設された野球場で、成人野球チーム(右側)と中学生チームが試合をしたときの一枚



# JICA海外協力隊 BEFORE AFTER

## ～広がる帰国後の可能性～

日本とは文化が大きく異なる社会に入り込み、現地の人たちとともに生活し、働く経験は、おのずと「人間としての力」が鍛えられ、同時に「生き方」についての価値観を見直すきっかけにもなります。協力隊経験がその後の人生の歩み出しにどのような影響を及ぼすのか、具体例をご紹介します。



CASE 03

尾崎真理子さん  
(フィリピン・村落開発普及員・2009年度4次隊)  
※現・コミュニティ開発

帰国後

コミュニティカフェ経営  
(おどもカフェ)



CASE 02

森裕美子さん  
(マーシャル・青少年活動・2014年度2次隊)

帰国後

地方自治体職員  
(静岡市役所)



【尾崎さんプロフィール】

1981年生まれ、長野県出身。大学卒業後、フィリピンでNGOのボランティアプログラムに参加したのをきっかけに、同国の大学院に進学して「共同体の自立」について研究する。2010年3月、協力隊員として同国に赴任。漁業組合に配属され、養殖振興の支援などに取り組む。12年3月に帰国。13年4月、長野県下伊那郡阿南町に地域おこし協力隊員として着任。任期終了後の16年4月、同町御供（おども）地区にコミュニティカフェ「おどもカフェ」をオープン。

## 「共同体の自立」への 関心が高まり 「地域づくり」を仕事に



▲おどもカフェの厨房に立つ尾崎さん。店舗を英会話教室やヨガ教室の会場として貸し出すこともあるほか、町の社会福祉協議会が行う就労支援事業で引きこもりの人の就労を引き受けることもある  
▶協力隊時代の尾崎さん（最後列）と任地の地方自治体職員たち



「尾崎さんが同町での仕事を始めて以来、一貫して心がけているのは、「自分自身が楽しんで働く」ということである。「協力隊時代、現地の人からよく『楽しく仕事をしているかい？』と聞かれました。『楽しまなければ損』という彼らの前向きな姿勢を思い出しながら、私も地元の方がカフェを利用してくださり、他愛ないことやまじめなことをあれこれ話せることを心から楽しんでます」

【BEFORE】  
尾崎さんの人生が方向を変えたのは「9・11」だ。それまでは役者志望の大学生として、演劇の歴史が長い「ヨーロッパ」にばかり目が向いていた。「9・11」の後、パキスタンでアフガニスタン紛争の被害者の声を聞く機会を得る。日本のメディアでは報じられない彼らの実情を知り、途上国に目が向くようになった。大学を卒業すると、NGOのボランティアプログラムでフィリピンに滞在。その後、同国の大学院で歴史を学ぶが、大多数の人の生活とはかけ離れた都市部で

【AFTER】  
協力隊での大きな出会いは、配属先の組合長の男性だ。学歴のなさへのコンプレックスを口にしながら、「マンダロウ」に備わる津波の減災や生態系の保全といった機能を独学で調べ、手弁当でそ

の植樹を進めていた。尾崎さんは、「自立の精神」を持った住民の存在こそ、共同体の発展には不可欠なのだと思感じた。組合長への感銘から、尾崎さんは「共同体の自立」を帰国後のライフワークにしようと考えている。当初は研究の道も検討したが、日本での実践を経験しておくべきだと思ひ、地域おこし協力隊に参加。特定の専門性が不要だった長野県下伊那郡阿南町のポストに応募し、採用された。同町にもやはり、「自分たちの力で町を良くしたい」という情熱を持つ住民はいた。「地元の郷土料理の伝承」など、尾崎さんが地域おこし協力隊員として実践した活動は、いずれも住民のアイデアを汲み取ったものである。

【森さんプロフィール】

1983年生まれ、静岡県出身。大学卒業後、英会話教室講師やゲストハウススタッフを経て、2014年9月、協力隊員としてマーシャルに赴任。女性支援を行うNGOに配属され、子育てに関する教育の支援などに取り組む。16年10月に帰国。17年、静岡市職員採用試験に新設された協力隊経験者などを対象とする特別枠「創造力枠」に合格し、18年4月に同市に入職。観光交流文化局観光・国際交流課MICE・国際係に配属され、現在に至る。

## 「地域」を対象にした 仕事の魅力を知り 地方自治体職員の道へ

【BEFORE】  
森さんの目が初めて海外に向いたのは、小学3年生のとき。いとこのペンパルだった米国の女子中学生が来日した際、一緒に遊び、その楽しさからすぐさま英会話教室に通うようになった。大学を卒業すると、英会話教室の講師、外国人向けゲストハウスのスタッフと、日本国内で英語力を生かした仕事を渡り歩く。協力隊に興味を持つようになったのは、ゲストハウスに勤めていたときだ。各国から来る外国人客を相手にするなか、「海外での仕事を体験してみたい」との思いが募っていく。協力隊を経験した同僚や友人から話を聞き、「せっかくなら人の役に立つ仕事を」と協力隊参加を決めたのは、30歳のときだ。

【AFTER】  
元来、人とかかわることが好きで、派遣前もそうしたタイプの仕事に就いていた森さんだったが、それらはいずれも生徒や客など限られた人を相手にするもの。「地域住民」という広い範囲の人々を対象に働くのは、協力隊が初めてだった。啓発の対象である女性グループのメンバーが、女性の社会的地位の問題に目覚め、自信を持った発言や行動をとるようになる

【BEFORE】  
森さんの目が初めて海外に向いたのは、小学3年生のとき。いとこのペンパルだった米国の女子中学生が来日した際、一緒に遊び、その楽しさからすぐさま英会話教室に通うようになった。大学を卒業すると、英会話教室の講師、外国人向けゲストハウスのスタッフと、日本国内で英語力を生かした仕事を渡り歩く。協力隊に興味を持つようになったのは、ゲストハウスに勤めていたときだ。各国から来る外国人客を相手にするなか、「海外での仕事を体験してみたい」との思いが募っていく。協力隊を経験した同僚や友人から話を聞き、「せっかくなら人の役に立つ仕事を」と協力隊参加を決めたのは、30歳のときだ。

【AFTER】  
元来、人とかかわることが好きで、派遣前もそうしたタイプの仕事に就いていた森さんだったが、それらはいずれも生徒や客など限られた人を相手にするもの。「地域住民」という広い範囲の人々を対象に働くのは、協力隊が初めてだった。啓発の対象である女性グループのメンバーが、女性の社会的地位の問題に目覚め、自信を持った発言や行動をとるようになる

【BEFORE】  
森さんの目が初めて海外に向いたのは、小学3年生のとき。いとこのペンパルだった米国の女子中学生が来日した際、一緒に遊び、その楽しさからすぐさま英会話教室に通うようになった。大学を卒業すると、英会話教室の講師、外国人向けゲストハウスのスタッフと、日本国内で英語力を生かした仕事を渡り歩く。協力隊に興味を持つようになったのは、ゲストハウスに勤めていたときだ。各国から来る外国人客を相手にするなか、「海外での仕事を体験してみたい」との思いが募っていく。協力隊を経験した同僚や友人から話を聞き、「せっかくなら人の役に立つ仕事を」と協力隊参加を決めたのは、30歳のときだ。



▲静岡市のプロモーションを目的とした交流会のPR用ブースで、同市職員としてオーストラリア大使館関係者(右)の通訳を担当する森さん(中央)  
▶赤十字社が開催するイベントで、同僚とともに家庭での衛生管理について講義を行う協力隊時代の森さん(奥左)

市役所でのこれまでの仕事で森さんが「協力隊経験の賜物」と自覚しているのは、「置かれた環境で最善を尽くそうとする姿勢」だ。「協力隊員として着任した当初は、自分の存在意義が見出せず、途方にくれました。しかし、辛抱強ささまざまな人とのつながりを築いていくと、やがて自分に果たせる役割が見えてきた。そんな経験があるため、今の職に就いてからも、与えられた仕事をこなすだけでなく、さまざまな勉強会に足を運ぶなどして、『今、自分でできること』を広げる努力が自然にできています」



CASE 05

シニア海外ボランティア等経験者

帰国後

OB・OG会

(NPO 法人  
シニアボランティア経験を活かす会)



[NPO法人  
シニアボランティア経験を活かす会]

事務所：東京都千代田区平河町1-6-15 USビル8F  
会員数：約150人  
ウェブサイト：https://jicasvob.com

シニア海外ボランティアと日系社会シニア・ボラン  
ティアのOB・OGたちで構成する団体。2004年に  
任意団体として発足し、05年にNPO法人格を取得。  
学校での国際理解教育や、外国にルーツがある児童  
の放課後学習の支援などに取り組んでいる。

## OB・OGが協力し合い 協力隊経験を活かした 社会活動を展開

途上国で現地の人とともに暮らし、働  
くという経験は、日本人の誰にでもその  
チャンスがあるわけではない。協力隊は  
そうした貴重な経験だからこそ、帰国後、  
それをいかんなく発揮できるような仕事  
やボランティア活動に携わりたいと多く  
のOB・OGは願う。それを実現する方  
法のひとつとなっているのが、「派遣国」  
や「職種」、「居住地域」などさまざま  
な共通項を持つ「OB・OG会」を結  
成し、協力隊経験を生かした社会活動に  
共同で取り組むというものである。

シニア海外ボランティアや日系社会シ  
ニア・ボランティアのOB・OGによ  
り構成されるNPO法人シニアボラン  
ティア経験を活かす会(以下、「会」)は、  
OB・OG会のなかでも特に活発な活動  
を展開している例だ。メインの活動のひ  
とつは「出前授業」。もっとも多いのが、  
小・中学校の「総合的な学習の時間」の  
コマに参加して行う国際理解教育の授業  
だ。教育委員会や学校などからの委託に  
よるもので、「会」のメンバーがそれぞ  
れの派遣国について紹介する。できる限り  
JICAのプログラムで来日している外  
国人研修員に同伴を依頼し、日本の子ど  
もたちに「外国人」とじかに接する機会  
を提供するよう努めている。



▲神奈川県鎌倉市の市立中学校で  
国際理解教育の授業を行った「会」  
のメンバーと外国人研修員たち。生徒  
と研修員が英語でコミュニケーション  
を図る内容の授業だった  
▶「会」のメンバーたち



CASE 04

池邊佳織さん  
(マラウイ・公衆衛生・2014年度3次隊)

帰国後

国際協力 NGO 職員

(NPO 法人 ISAPH)



[池邊さんプロフィール]  
1985年生まれ、鳥取県出身。看護学校を卒業後、大  
学病院の消化器外科病棟に看護師として3年間勤務。  
2015年1月、協力隊員としてマラウイに赴任。17年6  
月に帰国。18年1月、アジアやアフリカで保健・医療  
分野の活動を行うNPO法人ISAPH (International  
Support And Partnership for Health) に入  
職し、JICAの草の根技術協力事業「母と子の『最初  
の1000日』」に配慮したコミュニティ栄養改善プロ  
ジェクト」のプロジェクト調整員に着任。

## 保健・医療系NGOの 現地駐在員となり 国際協力を仕事に

池邊さんの心に「アフリカ」が登場し  
たのは、高校に入学したばかりのころ。  
医療が整っていないために亡くなる子ど  
もがいることをテレビで知り、衝撃を受  
けた。やがて、アフリカで医療支援に携  
わるために看護師の道を志すようになった。  
資格を取ると、大病院の消化器外  
科病棟で看護師としてのキャリアをス  
タートさせる。

仕事にも慣れ、あらためて「アフリカ」  
が頭にのぼったのは、就職して2年ほど  
経ったころだ。消化器外科の入院患者は



▲ISAPHのマラウイ事務所働くマ  
ラウイ人スタッフたちとミーティングを  
行う池邊さん(中央)。現在、同事務  
所は池邊さんを含めて日本人が2人、  
マラウイ人が12人という体制だ  
▶小学校を訪問し、マラリアに関する  
講習を行う協力隊時代の池邊さん。  
児童を寝かせて「蚊帳」の意義を説  
明している

末期ガンも少なくない。患者との会話は  
おのずと「生き方」に関するものが多く  
なった。「体が動くうちに、やりたいこと  
はやっておいたほうが良い」。高齢の患  
者にそう言われ、「アフリカで医療支援」  
という夢を、まずは協力隊で実現する決  
心がついた。希望どおり、アフリカの国・  
マラウイに派遣された池邊さんは、地方  
の医療施設に配属され、母子保健や学校  
保健の支援に取り組んだ。

協力隊はすべてが期待どおりというわ

### メインの活動は出前授業

### 経験を活かす場を生む役割

「会」の最大の強みは、各種業界で長年に  
わたりキャリアを積んできた「スペシャ  
リスト」が揃っている点。メンバーがそ  
れぞれの得意技を生かしながら「会」の  
運営を支えている。たとえば、小学校の  
教員として校長まで勤め上げたメンバ  
ーは、出前授業のリーダー役となり、「ど  
の学年の子には、どのような内容、ポリ  
ームの授業が適切か」といったノウハウを  
メンバーたちに周知している。

点の検討なども行っている。そうした努  
力の結果、「質の高い授業をしてくれる  
団体」との評価が定着し、「会」に舞い込  
む出前授業の依頼は現在、多い月で20件  
を超す。電機メーカーで技術者を務めて  
いた「会」の副理事長、森岡潔さん(SV  
/ヨルダン・電子工学・2013年度3  
次隊)は、「組織の力は大きい」と話す。  
「会」があるから、協力隊経験を活かす  
場を得ることができている。1人では何  
もできなかったらどう思うと思います。こ  
れから協力隊に参加されるシニア世代の  
方々のためにも、今後さらに「会」の力  
を伸ばしていければと考えています」

「日本での看護師の仕事は、決められた  
基本的な手順に沿うことが良しとされま  
す。一方、現在の仕事は、プロジェクトの  
おおまかなプランはあるものの、啓発活  
動の具体的な実施方法などは、現場の状  
況を見ながら自分で考えていかなければ  
なりません。それをこなすことができ  
ているのは、協力隊活動がまさに『自分  
で考える力』を必要とするものだったか  
らだと思います」



6 大阪府  
【カフェ・バー】  
**Cafe & Bar សម្បទាន**  
カフェ・アンド・バー・サバイディー  
大阪府大阪市福島区鷺洲 2-10-26




東南アジアをテーマとしたカフェ・バーです。店名はラオス語のあいさつです。Jazzとおいしいアジア料理やお飲み物で快適な空間をご提供しています。目立たない店構えですが、多くの魅力あふれるお客様に来ていただいております。カウンター越しの会話は店主にとっても勉強になることばかりで、それが弊店の魅力のひとつにもなっています。東南アジアにご興味ある方もそうでない方も、ぜひお越しください。

私がオーナーです！  
つじ ひろゆき  
**辻 裕之さん**  
派遣国：ラオス  
隊次：2005年度1次隊  
職種：理数科教師



7 島根県  
【スリランカカレー店】  
**印度亜**  
インドア  
島根県松江市西茶町 1-24



山陰で唯一のスリランカ料理店として17年間営業してまいりました。郷里の皆様には馴染みが薄いスリランカという国を、少しでも知っていただき、興味を持ってもらえたらうれしいという思いで続けています。協力隊活動や国際協力に関心をお持ちのお客様が来店された際は、自身の経験談をお話させていただくことも可能です。少し辛いですが、スパイス（薬膳）効果でとても体に良いカレーをご用意してお待ちしております。

私がオーナーです！  
うちだともみ  
**内田智巳さん**  
派遣国：スリランカ  
隊次：1990年度3次隊  
職種：陸上競技



9 鹿児島県  
【農家民宿】  
**雲をたがやし月に種まき**  
鹿児島県始良郡湧水町木場 4141



我が家は協力隊OB・OGが営む有機農家です。エキゾチックな味わいはありませんが、失われつつある里山の暮らしが体験できます。マクロビオティック（自然からの恵みを賜り、素材を生かす）や薪ストーブに興味のある方も大歓迎です。ご宿泊いただける日程は限られますが、農業体験のご希望があればご相談ください。援農ボランティアも承ります！

私がオーナーです！  
たけの こう  
**竹野 功さん**  
派遣国：バングラデシュ  
隊次：1993年度1次隊  
職種：在庫管理  
  
たけの あい  
**竹野 愛さん**(旧姓：白木)  
派遣国：タイ  
隊次：1993年度1次隊  
職種：日本語教師  
(現・日本語教育)



5 三重県  
【無国籍料理店】  
**ぼれぼれ家**  
ボレボレヤ  
三重県伊賀市上野向島町 3431



19カ国の料理を食べることができる無国籍レストランです。三重県伊賀市は、外国人比率が約6.2パーセント、43カ国の人たちが住む多国籍な町です。国際交流協会に勤務していたときに日本在住外国人から教わった料理、あるいは協力隊時代や中南米旅行で覚えた料理をご提供しており、当店に来るだけで世界旅行ができます！ 現地の味を知りたい方、懐かしい味を思い出したい方、ぜひお越しください。

私がオーナーです！  
きくやまじゅん こ  
**菊山 順子さん**  
派遣国：パラグアイ  
隊次：1987年度2次隊  
職種：家政

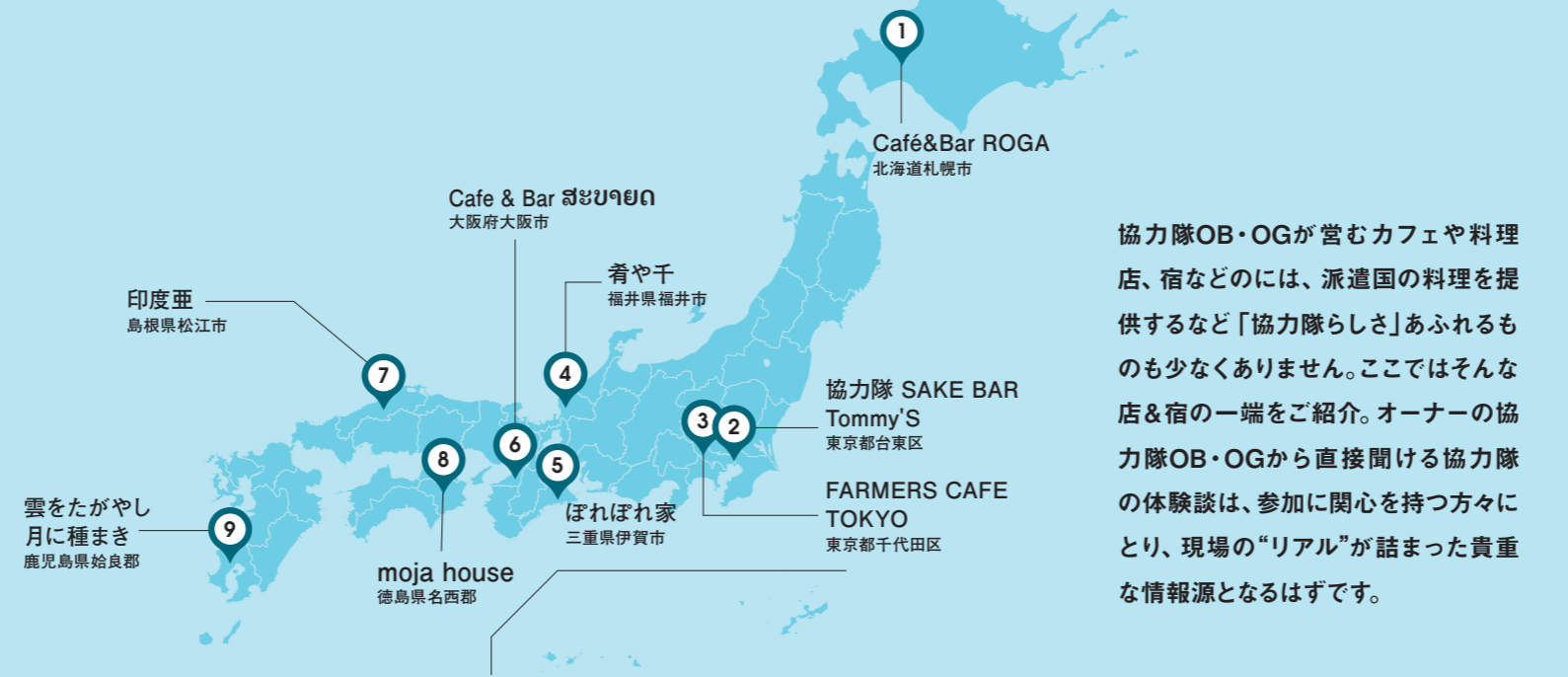


1 北海道  
【カフェ・バー】  
**Café&Bar ROGA**  
カフェ・バー・ロガ  
北海道札幌市北区北7条西5丁目5



札幌軟石（札幌で産出される石材）を使った古い石蔵を改装したカフェ・バーです。店名の「ROGA」は、「家」を意味するパラグアイの現地語です。弊社では毎年、協力隊OB会の皆さんと協力し、新隊員さんの壮行会や、協力隊に興味のある方に向けたトークライブなども定期的に行っています。店内には薪ストーブやパラグアイのアルパ（伝統楽器）がありますので、弊社で雪国・北海道と南米・パラグアイの両方を楽しんでみてはいかがでしょうか？

私がオーナーです！  
おた こうすけ  
**太田 晃寛さん**  
派遣国：パラグアイ  
職種：ソーシャルワーカー  
隊次：2007年度派遣  
※日系社会青年ボランティア



協力隊OB・OGが営むカフェや料理店、宿などには、派遣国の料理を提供するなど「協力隊らしさ」あふれるものも少なくありません。ここではそんな店&宿の一端をご紹介します。オーナーの協力隊OB・OGから直接聞ける協力隊の体験談は、参加に関心を持つ方々にとり、現場の「リアル」が詰まった貴重な情報源となるはずですよ。

2 東京都  
【バー】  
**協力隊 SAKE BAR Tommy'S**  
キョウリョクタイ・サケ・バー・トミーズ  
東京都台東区西浅草 3-22-20




外国人観光客が多く訪れる「浅草」という立地で経営する日本酒バーです。「協力隊OB・OGが気軽に集まれる場所」「国際協力に興味のある人が集まる場所」をコンセプトに、厳選した全国各地の銘酒約20種のほか、アフリカのお酒などもご提供しています。定期的に行っているイベントでは、外国人や協力隊経験者、日本酒好きの方など多くの参加者で賑わい、有意義な交流の場にもなっています。

私がオーナーです！  
とき たともひろ  
**梶田知弘さん**  
派遣国：ザンビア  
職種：PCインストラクター  
隊次：2015年度4次隊



8 徳島県  
【ゲストハウス】  
**moja house**  
モジャ・ハウス  
徳島県名西郡神山町神領字本小野 363




宿名の「もじゃ」は、「おいしい」「楽しい」という意味のベンガル語です。豊かな山々に囲まれた徳島県神山町。自然の恵みをたっぷり受けて育ったお野菜やお米が食べられたり、家族のように温かく迎え入れてくれる人たちがいたり、昔から脈々と続く暮らしの文化が今も受け継がれています。そんな「もじゃ」な神山の日常を、旅人と地域の人とが分かち合えるような宿です。神山のお野菜を使ったバングラデシュカレーづくりも体験できます。

私がオーナーです！  
かわの あゆみ  
**川野歩美さん**  
派遣国：バングラデシュ  
隊次：2013年度2次隊  
職種：コミュニティ開発



4 福井県  
【隠れ家的居酒屋】  
**肴や千**  
サカナヤセン  
福井県福井市順化 1-10-9 ドリームタウンビル 1F



帰国後、「やはり自分には料理しかない!」と思い、2013年に27歳で当店をオープンしました。福井ならではの新鮮な魚介や郷土料理などを楽しんでいただける純和風の創作居酒屋です。ご要望があれば、「カルルスープ」や「チキンのカレーココナツ煮込み」など、私自身がドミニカで味わったカリブの風を感じる料理のご提供も可能です。協力隊の壮行会や説明会なども開催しており、協力隊OB・OGと交流できる店にもなっています。

私がオーナーです！  
せん たかひろ  
**千田崇裕さん**  
派遣国：ドミニカ  
隊次：2009年度2次隊  
職種：料理



3 東京都  
【カフェ】  
**FARMERS CAFE TOKYO**  
ファーマーズ・カフェ・トウキョウ  
東京都千代田区内神田 2-8-1 浅井ビル 1F



パプアニューギニア産の生豆を自家焙煎し、ていねいにハンドドリップしたコーヒーをご提供しています。そのほか、現地のアクセサリや小物、北海道の自社農園で生産する蕎麦粉のガレット、雑穀なども販売しています。よく来店されるのは、協力隊OB・OG、海外に関心を持つ方、農業関係者、商社の方などです。手が空いた時間には、私自身の協力隊体験談やパプアニューギニアのお話をする您也可以ですので、ぜひお越しください。

私がオーナーです！  
こうあつひろ  
**後藤敦弘さん**  
派遣国：パプアニューギニア  
職種：農業機械  
隊次：2015年度2次隊  
※シニア海外ボランティア





# 活動

## 母子保健向上を支援

野地さんの配属先は、カメルーン保健省家族保健局の地方出先機関（場所はエデア郡保健事務所内）。カメルーンは母子の健康指標が低い。同局ではその改善を目指して「母子健康手帳」の普及プロジェクトを進めている。エデアの保健行政地区はそのパイロット地域となっており、野地さんの活動はプロジェクトの支援。地域の病院などで母子健康手帳の理解促進や普及、母親への健康に関する啓発活動などを行っている。今後は、母子健康手帳を販売し、その売り上げで家族保健局が追加供給をするサイクルを定着させたいと考えている。

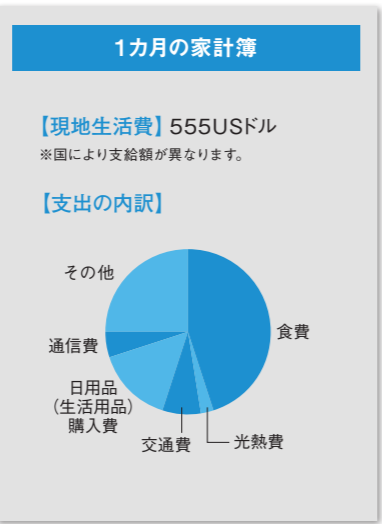


1 地域の各病院の代表を招いて行った母子健康手帳に関する研修  
 2 いつも活動を助けてくれるエデア郡保健事務所のスタッフたち  
 3 地域の病院で、新生児と乳幼児の予防接種のために来院した母親たちに健康に関する啓発活動を行う野地さん  
 4 野地さんの配属先の外観

カメルーンで普及が行われている母子健康手帳

### 1日のスケジュール

06:00	起床・掃除・身支度・朝食
07:30	徒歩で出勤・同僚と挨拶・打ち合わせ・メール確認
09:00	病院巡回・啓発活動
12:00	昼食
13:00	資料づくり
16:00	退勤・帰宅
17:00	夕食（外食）・買い物
19:00	洗濯・水浴び
20:00	語学の勉強・読書
22:00	就寝



# 生活

## 食事は現地料理を満喫

食事は朝・昼・晩とも任地の食堂でとる。主食はキャッサバやお米、プランテン（調理用バナナ）などで、おかずは魚の炭火焼きや牛肉炒め、野菜炒めなど。少し刺激が欲しいときは、すりつぶした唐辛子に油を混ぜたものを入れるのが定番。衣服は、市場などで好みの布を調達し、テーラーでオーダーメイド。散髪は、バリカンひとつで巧みにカットしてくれる任地の理容店を利用している。任地中での移動手段は徒歩で、任地外に出るときはバスを使う。



1 配属先の隣に住む子どもたち。活動後によく一緒に遊ぶ  
 2 任地のテーラー。見本を持参すれば、衣服だけでなく小物までつくってくれる  
 3 任地の理容店。現地の人の髪型は「坊主」が基本だ  
 4 よく食べる朝食メニュー。フランスパン、オムレツ、アボカドサラダ、コーヒー

カメルーン北部産の天然ハチミツ。とてもおいしく、季節の変わり目など体調を崩しやすい時期には重宝している



野地さんの自宅は2階の一室。1階は格安スマホの店が入っている。マルシェ（市場）が近く、便利な立地だ

立地	配属先まで徒歩10分	トイレ	水洗式
電気	あり	洗濯	手洗い
水道	あり	特長	ベランダがある
風呂	シャワー（お湯は出ない）	悩み	暑さと湿気

# 現場CloseUp

地方の農山漁村から都市部まで、JICA海外協力隊が赴く場所は千差万別です。ここでは、3つの異なるタイプの場所で活動しているJICA海外協力隊たちに、任地の概要や活動生活の様子を紹介してもらいます。

野地祐輔さん  
 Nochi Yusuke  
 派遣国：カメルーン  
 隊次：2018年度1次隊  
 職種：コミュニティ開発

PROFILE ● 1988年生まれ、千葉県出身。法政大学社会学部メディア社会学科卒。医療機器を取り扱う商社や、衛生用品や化粧品原料を取り扱う商社に営業職として勤務した後、2018年6月、青年海外協力隊員としてカメルーンに赴任。（写真右は、現地語学訓練の先生）



Q. 参加のきっかけは？  
 日本の国際NGOで事務ボランティアをやったことで、実際に海外で活動したいという思いが芽生えました。現地での生活を通じて、現地の人々が抱える問題を深く理解したうえで活動に取り組みたい、さらに日本から遠く離れたアフリカの人々の暮らしを知りたいという思いで応募しました。

Q. やりがいを感じる瞬間は？  
 母子健康手帳を利用しているお母さんたちを見ると、自身の活動が人々の役に立っているんだと実感します。

現場CloseUp  
 Cameroon  
 カメルーン



# 任地

リトル州サナガ・マリティム県  
 エデア市

位置	首都から約170キロ
人口	約13万人
民族	バサ族、バココ族
言語	フランス語、英語、バサ語
産業	農業（アブラヤシ、パラゴムノキ）、漁業、工業（アルミニウム）
気候	熱帯性の気候で、一年を通して気温は30度前後。季節は雨期と乾期がある。

野地さんの任地・エデア市は、内陸にある首都ヤウンデと港湾都市ドゥアラを結ぶ交通の要衝。国内の他の地域と比べて蒸し暑く、一年を通して日本の夏のような気候。町に沿うように流れるサナガ川では、漁が行われたり、水力発電所を利用したアルミニウム工場が立地していたりと、人々の暮らしを支えている。「果物が豊富で、バナナやパイナップルなど旬のものを堪能できます。サナガ川沿いのレストランで、川を眺めながら石窯ピザを食べるときが、安らぎの時間です」（野地さん）

- 1 町中の様子。バイクの量が多い。頭に商品を乗せ、売り歩く姿は任地の日常風景だ
- 2 野地さんが石窯ピザを楽しむサナガ川沿いのレストラン
- 3 ②のレストランから臨むサナガ川
- 4 首都と港湾都市ドゥアラを結ぶ国道





# 活動

## 日本語学校で 日本語の授業を担当

松村さんの配属先は、2011年につくられた日系団体「サウト日伯協会」により運営されているサウト日本語学校。活動の中心は、日本語授業の実施や教材の作成、州立小学校における「よさこい」授業の実施だ。ジャパン・フェスティバルなど協会が主催するイベントでは、来場者へ配る「お守り」の製作やお好み焼きブースの運営など、さまざまな形で手伝いをする。今後は、配属先の現地教員の指導力向上支援や、州立小学校での日本語授業の実施などに力を入れたいと考えている。



【いつもの持ち物 その①】  
財布、眼鏡、4色ボールペン（日本製）、電子辞書、USBメモリ

【いつもの持ち物 その②】  
配属先で使用している日本語の教材。左の鞆に入れて持ち歩いている。

① 前列右から2人目が、松村さんの唯一の同僚でカウンターパートにあたる配属先の日本語教師、八木さん  
② 配属先での日本語授業。生徒が同時にそれぞれ異なる内容の学習をする複式授業だ  
③ 州立小学校での「よさこい」授業の様子  
④ 配属先の事務所。パソコンやコピー機、日本語の漫画などが置いてある

## 松村月音さん Matsumura Tsukine

派遣国：ブラジル  
隊 次：2018年度3次隊  
職 種：日本語教育

PROFILE ● 1991年生まれ、愛知県出身。ラオス日本センターで日本語の常勤講師を務めた後、名古屋外国語大学大学院に進学。2019年1月、休学して日系社会青年海外協力隊員としてブラジルに赴任。（写真中央が松村さん。毎週水曜日の夜に盆踊りを楽しむグループのメンバーたち）



### Q. 参加のきっかけは？

小学生のときにテレビのCMでJICA海外協力隊のことを知り、興味を持ちました。日本語学校や日本語教室で教えるなか、より広い視野で日本語教育を考えるためには海外の現場を知ることが必要だと思い、応募しました。

### Q. やりがいを感じる瞬間は？

自分の活動が自己満足で終わってしまわないよう、現地の人たちが何を必要としているかを考えたり、現地の人たちと意見を交わしたりすることで、彼らと一緒に物事をつくり上げているのが感じられるときです。

## 現場CloseUp Brazil ブラジル



# 任地

## サンパウロ州 サウト市

- 位置 首都から約100キロ
- 人口 約11万4000人
- 民族 イタリア系移民が多い
- 言語 ポルトガル語
- 産業 観光業
- 気候 一年を通して温暖な気候。夏（12～3月ごろ）の平均気温は21～28度、冬（6～11月ごろ）の平均気温は15～25度

サウト市は、100年ほど前にイタリア系移民によって開拓された町。中心部の広場には、開拓の開始当初に建てられ、先住民と共に暮らしていくうえでの足がかりとされた教会が今も残る。「ヨーロッパから来た人々が南米の地をどのように開拓してきたか、歴史の雰囲気を感じることでできる場所なので気に入っています」（松村さん）。市の近年の問題は、都市部から続くチエテ川の汚染。家庭排水に混じる洗剤の泡が溢れる。かつては子どもたちが泳いで遊ぶことができるほど水がきれいだったという。

- ① 昔ながらの家並みが残る通りは、今も石畳みだ
- ② 市内を流れるチエテ川。雨の日には氾濫し、道に浸水することもある
- ③ チエテ川沿いのイベントステージ。ここで毎年8月に行われるジャパン・フェスティバルでは、和太鼓やコスプレの発表が行われたり、日本食の屋台が出されたりする
- ④ 市の中心部にある教会
- ⑤ 市の中心部にある広場には、町の先住民と開拓者が共に暮らす姿をモチーフとした像が置かれている



# 生活

## 食事は日本食とブラジル料理

朝食は自炊か近所のパン店。自炊の場合は、ご飯とお味噌汁、お世話になっている日系の方からもらう惣菜や漬物など。パン店ではホットサンドとコーヒーやオレンジジュースなど。日系人のお母さんたちが授業前やイベント時に用意してくれる日本食は、「ブラジルのおふくろの味」。土曜日の授業後には、シュハスコ（ブラジル式焼肉）を仲間と共に楽しむ。食材調達は近所にある食料品店で。任地の店は肉も野菜も量り売り。果物や野菜は種類も豊富で、日本食向け調味料も扱っている。



松村さんの自宅は2階の一室。隣には商店があり、便利。裏にはチエテ川が流れる

- |     |             |    |                            |
|-----|-------------|----|----------------------------|
| 立地  | 配属先まで徒歩10分  | 洗濯 | 洗濯機                        |
| 電気  | あり          | 特長 | ベランダがある                    |
| 水道  | あり          | 悩み | チエテ川が近くにあるため、悪臭や大量の虫が入ってくる |
| 風呂  | シャワー（お湯も出る） |    |                            |
| トイレ | 水洗式         |    |                            |

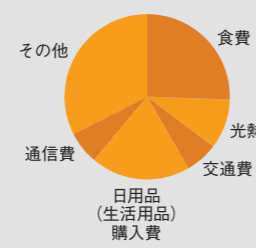
### 1日のスケジュール

- 06:00 起床・シャワー
- 07:00 日本のニュースの確認・語学勉強・朝食
- 09:00 授業準備・教材作成
- 12:00 昼食
- 13:30 授業準備・教材作成
- 16:00 徒歩で出勤・授業準備（印刷等）
- 18:30 同僚と挨拶・打ち合わせ
- 19:30 授業
- 21:30 帰宅・シャワー・夕食
- 22:30 家族や友人との連絡・音楽鑑賞
- 23:30 就寝

### 1カ月の家計簿

【現地生活費】760USドル  
※国により支給額が異なります。

### 【支出の内訳】



▲ 現地のオレンジジュースはすべて果汁100パーセント



- ① 自宅から一番近いパン店兼カフェ
- ② シュハスコ（ブラジル式焼肉）。ブラジル人の友人（写真）が毎週焼いてくれる
- ③ 松村さんがよく利用する生鮮食品の店。肉も野菜も量り売りだ
- ④ 日系のお母さんたちが授業前やイベント時に用意してくれる日本食の数々



# 活動

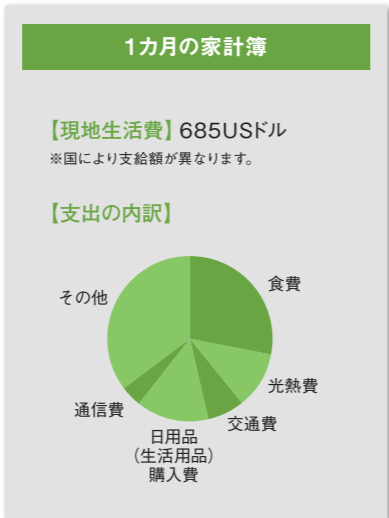
## ガラス工芸の技術を伝える

配属先はコロール州政府の廃棄物管理事務所。リサイクル促進の一環として白崎さんが携わっているのは、廃ビンなどを溶かして新たなガラス工芸品をつくる「ベラウ・エコガラス・プロジェクト」だ。「ベラウ」はパラオ語で「パラオ」の意。現地の観光業の発展、引いてはパラオ人の経済的自立につながる事が期待されているプロジェクトである。白崎さんはガラス工房のスタッフたちにガラス工芸の技術や設備の管理法を指導している。「パラオ人にしかない感性で芸術作品をつくることにチャレンジしてもらいたい。いずれ、他国でパラオ人の作品展を開きたいと思っています」(白崎さん)



1 吹きガラスのデモンストレーションを行う白崎さん(右)と同僚  
2 ガラス工房内の様子  
3 4 5 パラオ人スタッフがつくった作品

1日のスケジュール	
07:30	起床
08:00	朝食・シャワー
09:30	出勤準備
11:00	昼食
12:00	出勤・工房準備・廃ビンの洗浄
14:00	ガラス講座・体験講座・作品制作の指導
16:00	休憩
17:00	ガラス講座・体験講座・作品制作の指導・後片付け
20:00	帰宅・シャワー・洗濯
21:00	夕食
22:00	翌日の準備・テレビ鑑賞
24:00	就寝



# 生活

## 食事は自炊が基本

食事は自炊。友人から魚をもらい、刺身や焼き魚にして食べることもある。ときどき海が見える店で友人と食事をするのは楽しみのひとつだ。衣服はパラオで唯一の古着店で購入。スーパーで生地を買い、オーダーメイドすることも可能だ。インターネットはプリペイドカードを利用。25ドルで月に10ギガバイトの通信ができる。



立地	配属先まで車で10分	トイレ	水洗式
電気	あり	洗濯	コインランドリー
水道	あり	特長	配属先から近いが、洗濯も多い
風呂	シャワー(短時間ならお湯が出る)	悩み	古さと湿気



- 1 自宅の室内。2階建てアパートの2階の一室
- 2 自宅のバルコニー。家の中で一番涼しい場所だ
- 3 自宅の外観。1階に商店や美容室、コインランドリーがあり、2階にはレストランがある
- 4 大切なアイテムは「ビン」。できるだけ汚れの少ない空きビンを集め、より良い状態のガラスを溶かしてガラス工芸品をつくれるように努めている
- 5 ガラス工房で吹きガラスの原料としているのは、この4種の酒の廃ビン
- 6 コロール州政府主催のイベント。サンタクロースは配属先のガラス工房のスタッフだった
- 7 ココナツの実を買い、マイストローでジュースを飲む



## 白崎園己さん Shirasaki Sonomi

派遣国: パラオ  
隊次: 2018年度派遣  
職種: 手工芸

PROFILE ● 1969年生まれ、福井県出身。大阪芸術大学芸術学部建築学科を卒業後、建築事務所に就職。その後吹きガラスを学び、カナダや米国で修行を積み、帰国後、ガラス工房に勤務。2019年3月、シニア海外ボランティアとしてパラオに赴任。(写真左が白崎さん。ガラス工房のスタッフと)

※派遣名称は派遣当時のものです。



## Q. 参加のきっかけは?

日本のガラス工房に勤務していた時期、そこにパラオ・コロール州政府からパラオ人のガラス技術者見習いが研修のために派遣されてきました。彼は聾者でしたが、ジェスチャーでの会話がわかりやすく、コミュニケーションをスムーズにとることができました。楽しく彼を指導する私を見て、勤務先の上司からシニア海外ボランティアへの応募を勧められ、私は参加を決意しました。

## Q. やりがいを感じる瞬間は?

配属先のスタッフが興味を持って仕事に取り組んでいるときです。

## 現場CloseUp Republic of Palau パラオ共和国



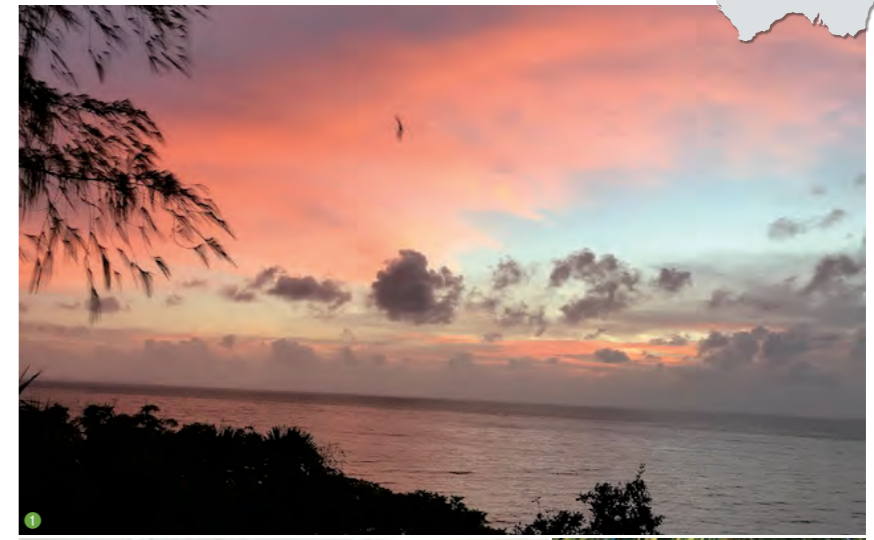
オーストラリア

# 任地

## コロール州 コロール市

位置	首都から約18キロ
人口	約2万人
民族	パラオ人、フィリピン人、バングラデシュ人、日本人、台湾人、韓国人、欧米人
言語	パラオ語、英語
産業	観光業
気候	海洋性熱帯気候で高温多湿。年間を通して蒸し暑い。気温は25~32度程度

2006年まで首都だったパラオ最大の都市、コロール市が白崎さんの任地。年長者が社会で重要な役割を担うなど、今も伝統的な文化が残る。宗教はキリスト教徒が多いが、現地の伝統宗教とキリスト教が混ざった「モドクゲイ」という宗教も信仰されている。親日国とも言われており、「習慣」などはパラオ語でも同じ音の「シュウカン」。美しい海やたくさんの海洋生物、満天の星空など、自然の豊かさは同国の魅力の一つ。いくつもの島々からなるロックアイランドは、世界自然遺産にも登録されており、多くの観光客が訪れる。



- 1 コロール州の海辺。水平線に沈む夕日は島国ならではの絶景だ
- 2 パラオの至る所に自生するヤシの木
- 3 4 パラオの砂浜で見つけた宝物。同国では4の貝殻など自然物は持ち帰れないので、3のシーグラスだけ持ち帰った
- 5 白崎さんがよく利用するコロール市内の大型ショッピングセンター



## 応募者へのメッセージ

今の自分にできることを考えるのは大切ですが、今の自分がどのようなことにチャレンジできるかを考えることはさらに大切です。また、そうして掴んだ経験は大切な糧になります。

## 2017年9月

野原さんの専門はIT分野。農業系である配属先への理解を深めるため、4Hクラブの生徒たちが農業関連の活動成果を競い合う配属先最大のイベント「ナショナルアチーブメント」のほか、「ファーマーズマーケット」などにも参加。IT化の対象になる活動を探した。

## 活動中 1



▲ファーマーズマーケットのチラシ

## 現在



## 2019年11月

各種システムやIoTサービスの開発など行うソフトウェア企業、株式会社アトムシステムに勤務。工場の出荷業務改善システム開発などに携わっている。今後、海外の関連会社とのプロジェクトにも参加予定。

## ▶20ページ

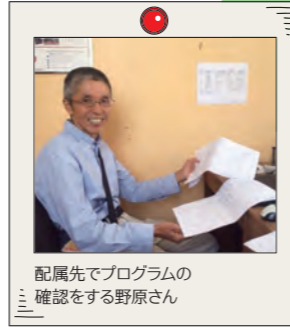
「JICA 海外協力隊 BEFORE・AFTER」

## 就職活動

## 2019年4月

職業安定所や転職サイトを利用して、就職活動を始める。就活に際し、ジャマイカの人たちの家族を大切に考え働くスタイルを見習い、家と仕事のバランスを考えるとともに家族とよく話し合い意見を聞くようにした。

## 活動報告



配属先でプログラムの確認をする野原さん



配属先の同僚たちと

## 活動中 2



## 2019年3月

帰国前にカウンターパートから電話をもらい、野原さんの活動によって業務の効率化が図られたことなどについて、感謝の言葉を伝えられた。



## 帰国

## 2018年10月

勤怠管理システムのウェブプログラムが稼働開始。プログラムが動いたとき、新入社員（はるか昔）のときに初めてつくったプログラムが動いたときと同じ、ワクワクした気持ちになった。

## ▶16ページ

「JICA 海外協力隊の『やりがい曲線』」



配属先

やるぞ!!

## 活動開始

## 現地語学訓練

## 2017年4月

農業振興を通じ国家の発展に寄与する団体「ジャマイカ4Hクラブ」に配属され、人事管理システムの構築などIT分野での支援を行う。配属先のエアコン設定が16度で駒ヶ根の寒さが役立つ。

## ▶28ページ

「現場CloseUp」



## 2017年3月

## 派遣国に出発

## ▶12ページ

「JICAのサポート体制」

## 派遣前訓練

## 派遣中



## 2017年1月

野原さんは長野県の駒ヶ根訓練所で訓練を受けた。訓練時期は冬。健康維持のために行われる朝のジョギング（※）のときは「暑い国ジャマイカに行くのに訓練は寒い」と感じたそうだ。そのほかにラジオ体操の講師を招いた講座などで体づくりを行った。  
※現在は任意で行われている。

## ▶14ページ

「最新版“派遣前訓練”」

## 2016年7月

面接は「活動に際し、現地の人と考えが異なるときどう考え、どう行動するか？」など心構えに対する質問が多かったという。

## ▶11ページ

「『選考』のココが変わりました」

## 合格通知

## 2016年8月

自分にできるのかという不安も少しありつつ、これから待ち受ける新しい出来事への大きな期待を感じる。

## 2次選考（面接）



## 書類審査通過

## 応募書類など作成・提出

## 2016年3月

## 応募準備

## ▶10ページ

「応募までのTo-Doリスト」



## 情報収集

## ▶26ページ

「協力隊員に会える店&宿」

## 募集説明会に行く



## 派遣前

プロフィール●のはら・のぶと  
1959年生まれ、岐阜県出身。大学を卒業後、IT系専門学校を経てIT企業に就職。2017年3月、協力隊に参加（SV/ジャマイカ・コンピュータ技術・2016年度4次隊）。19年3月帰国。現在は株式会社アトムシステムに勤務。



# クロスロード

発行日 令和2年2月1日

編集・発行：  
独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1  
竹橋合同ビル

『クロスロード』ウェブ版は以下のアドレスからアクセスできます。  
<https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/pamphlet/crossroad/index.html>





## JICA 海外協力隊に関するお問い合わせ先

### ■ 本誌掲載記事／応募に関するお問い合わせ

お問い合わせ内容	窓口名称	TEL・FAX	e-mail	所在地
本誌掲載記事全般	JICA 青年海外協力隊事務局 参加促進課	TEL: 03 (5226) 3513 FAX: 03 (5226) 6379	jvtp@jica.go.jp	〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1 竹橋合同ビル ※2月17日よりこちらに変更になります。
募集・応募	JICA 海外協力隊募集事務局	TEL: 042 (404) 5021	contact@jocv.info	
ウェブ応募システム	JICA 海外協力隊 ウェブ応募問い合わせ窓口	TEL: 03 (6632) 9465	info@jica-saiyo.com	

### ■ JICA 国内拠点連絡先

名称	所轄地域	TEL・FAX	e-mail	所在地
JICA 北海道(札幌)	北海道(道央・道北・道南)	TEL: 011 (866) 8421 FAX: 011 (866) 8382	hkictp@jica.go.jp	〒003-0026 北海道札幌市白石区本通16丁目南4-25
JICA 北海道(帯広)	北海道(道東)	TEL: 0155 (35) 1210 FAX: 0155 (35) 1250	jicaobic@jica.go.jp	〒080-2470 北海道帯広市西20条南6-1-2
JICA 東北	青森県・岩手県・宮城県・ 秋田県・山形県	TEL: 022 (223) 4772 FAX: 022 (227) 3090	jicathic-jv@jica.go.jp	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル20階
JICA 二本松	福島県	TEL: 0243 (24) 3200 FAX: 0243 (24) 3214	jicanjv-bk@jica.go.jp	〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
JICA 筑波	茨城県・栃木県	TEL: 029 (838) 1117 FAX: 029 (838) 1776	jicatbic@jica.go.jp	〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6
JICA 東京	群馬県・埼玉県・千葉県・ 東京都・新潟県	TEL: 03 (3485) 7461 FAX: 03 (3485) 7025	tictpp1@jica.go.jp	〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-5
JICA 横浜	神奈川県・山梨県	TEL: 045 (663) 3220 FAX: 045 (663) 3265	yictpp@jica.go.jp	〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2-3-1
JICA 駒ヶ根	長野県	TEL: 0265 (82) 6151 FAX: 0265 (82) 5336	jicakjv-jocv@jica.go.jp	〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
JICA 北陸	富山県・石川県・福井県	TEL: 076 (233) 5931 FAX: 076 (233) 5959	jicahric@jica.go.jp	〒920-0853 石川県金沢市本町1-5-2 リファール オフィス棟4階
JICA 中部	静岡県・岐阜県・愛知県・ 三重県	TEL: 052 (533) 0220 FAX: 052 (564) 3751	cbictpd@jica.go.jp	〒453-0872 愛知県名古屋市中村区平池町4-60-7
JICA 関西	滋賀県・京都府・大阪府・ 兵庫県・奈良県・和歌山県	TEL: 078 (261) 0352 FAX: 078 (261) 0357	jicaksic-jocv@jica.go.jp	〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
JICA 中国	鳥取県・島根県・岡山県・ 広島県・山口県	TEL: 082 (421) 6305 FAX: 082 (420) 8082	jicacac-jocv@jica.go.jp	〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1 ひろしま国際プラザ内
JICA 四国	徳島県・香川県・愛媛県・ 高知県	TEL: 087 (821) 8824 FAX: 087 (822) 8870	jicaskic@jica.go.jp	〒760-0028 香川県高松市鍛冶屋町3番地 香川三友ビル1階
JICA 九州	福岡県・佐賀県・長崎県・ 熊本県・大分県・宮崎県・ 鹿児島県	TEL: 093 (671) 6311 FAX: 093 (671) 0979	jicakic@jica.go.jp	〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1
JICA 沖縄	沖縄県	TEL: 098 (876) 6000 FAX: 098 (876) 6014	oictpp@jica.go.jp	〒901-2552 沖縄県浦添市字前田1143-1

JICA 海外協力隊  
ウェブサイト  
はこちらから



これまで青年海外協力隊の「隊旗」として活用されていたマークが、改めてJICA ボランティア事業のシンボルマークに制定されました。2018年度2次隊より、派遣前訓練の終了時に隊旗をモチーフにしたバッジ(写真)がJICA 海外協力隊員へ配布されています。このバッジは、公の場や活動などで適宜着用されます。

